

# はじめての BizReporting® クライアント版

第 2.0 版 2025 年 8 月

日本電気株式会社

# 目 次

1 はじめに.....	2
2 環境構築編.....	3
2.1 BizReporting 設定前の確認 .....	4
2.1.1 .. システム環境変数 SYSFOL の確認 .....	4
2.1.2 .. BizReporting 環境の確認 (PrintBridge と共存する環境の場合) .....	4
2.2 BizReporting の設定 .....	5
2.2.1 .. デフォルトプリンタの設定 .....	5
2.2.2 .. xln ファイルの設定 .....	8
2.3 ETOSJX 連携 .....	11
2.3.1 .. DCS プリンタの設定 .....	11
2.3.2 .. BizReporting プリンタの設定 .....	19
2.3.3 .. 確認方法 .....	21
3 帳票設計編.....	22
3.1 概要 .....	23
3.2 フォームデータの設定 .....	26
3.2.1 .. フォームデータの設定 .....	27
3.2.2 .. 用紙の設定 .....	28
3.2.3 .. 行桁の設定 .....	30
3.3 出力情報の設定 .....	31
3.4 動作規則の設定 .....	35
3.5 基幹系情報の設定 .....	37
4 付録.....	41
4.1 様々な帳票 .....	42
4.1.1 .. A3 縦用紙の帳票を A4 縦用紙に縮小して出力したい場合 .....	43
4.1.2 .. 連続紙帳票をカット紙に出力したい場合 .....	44
4.1.3 .. 横 13.6 インチ、縦 11 インチの帳票を連続紙プリンタに出力したい場合 .....	45
4.1.4 .. 基幹系アプリケーションで 1 行 1/8 インチの帳票を出力したい場合 .....	49
4.2 環境構築チェックシート .....	50

# 1 はじめに

---

「はじめての BizReporting(クライアント版)」は、はじめての方でもご利用いただけるよう、BizReporting(クライアント版)の環境設定手順や VISUALFORMS for BizReporting を使用した帳票設計の手順をわかりやすくまとめたマニュアルです。

「2 環境構築編」では、BizReporting(クライアント版)の初期設定や、ETOSJX 連携(※)の環境設定方法などを、「3 帳票設計編」では VISUALFORMS for BizReporting のプロジェクト簡単設計機能を利用した基本的な帳票設計方法を説明します。

また、「4 付録」では VISUALFORMS for BizReporting を利用した様々な帳票の作成方法のご紹介と、BizReporting 環境構築時の確認用チェックシートを添付しています。

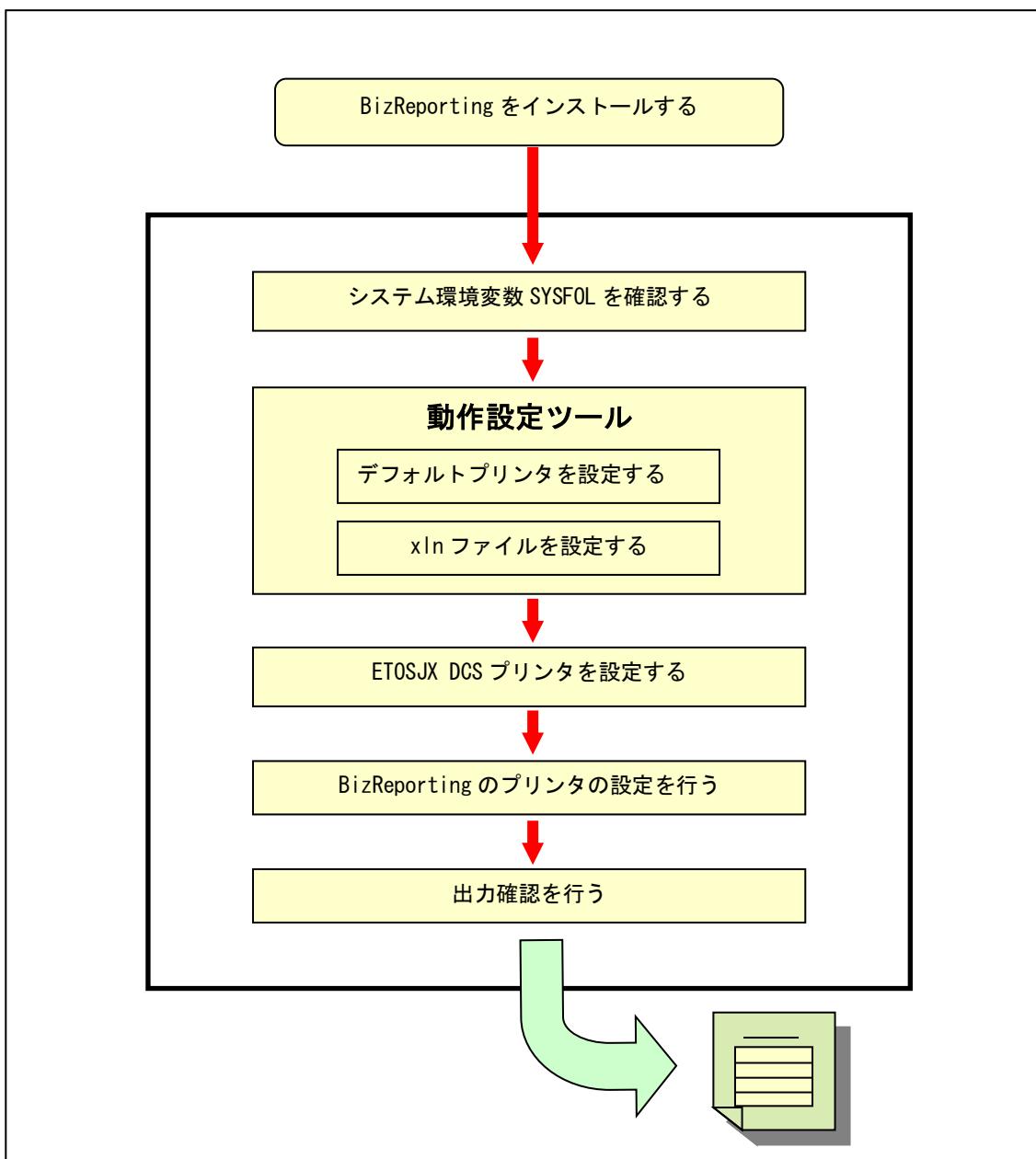
より詳細な設定方法をご覧になりたい場合は各ユーザーズガイドをご参照ください。

- ※ BizReporting Ver3.8 のクライアント版は 32bit で動作するアプリケーション『32bit 版 BizReporting』と 64bit で動作するアプリケーション『64bit 版 BizReporting』の 2 種類のアプリケーションを同梱しており、それぞれ 32bit で動作するソフトウェア、64bit で動作するソフトウェアと連携して動作します。  
ETOSJX 経由で利用する場合は、『32bit 版 BizReporting』をインストールして設定してください。

## 2 環境構築編

本章では、BizReporting（クライアント版）の環境設定方法について説明します。

BizReporting 環境構築の流れ



太枠内の機能について、本編で記載しています。

## 2.1 BizReporting 設定前の確認

BizReporting の設定を行う前に、以下の 2 つの項目について確認してください。

### 2.1.1 システム環境変数 SYSFOL の確認

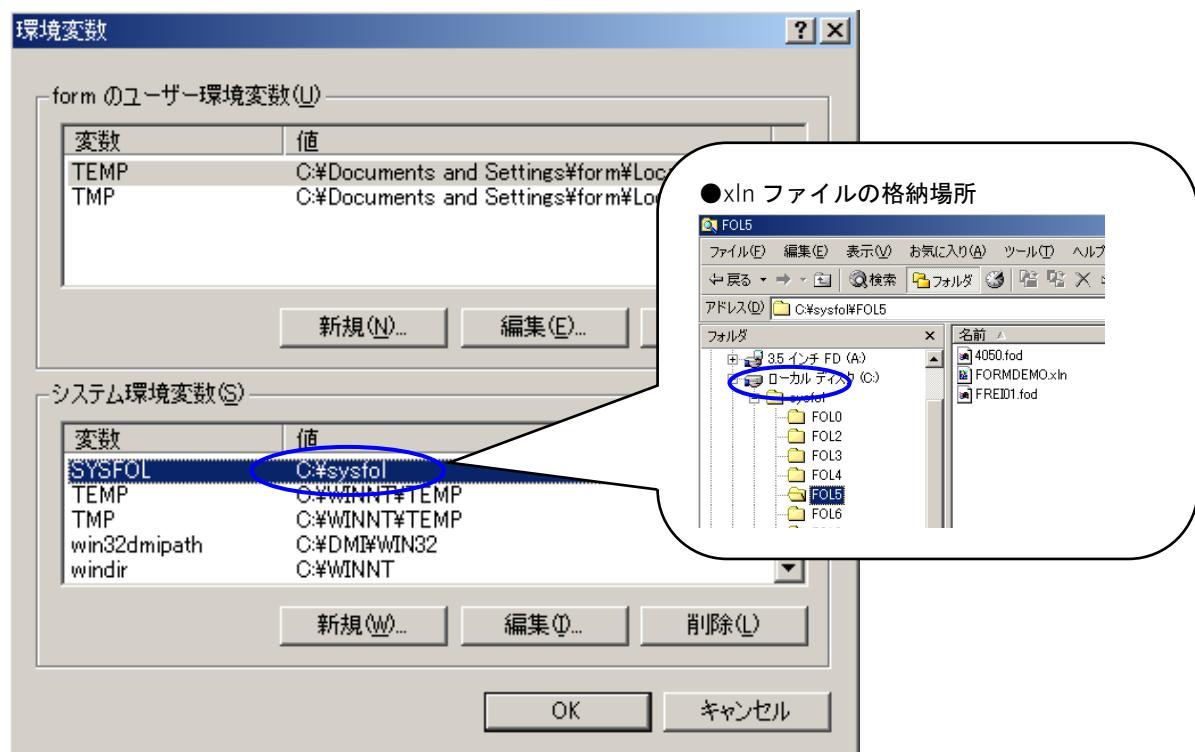
SYSFOL とは、基幹系アプリケーションの指定と BizReporting で使用する XFM ファイル（フォームデータ）の対応を行う xln ファイルの格納場所を定義するシステム環境変数です。xln ファイルを格納するフォルダの作成とシステム環境変数 SYSFOL への登録（システム環境変数 SYSFOL の作成を含む）は、BizReporting のインストール時に行うことができます。下記の手順で SYSFOL の設定を確認してください。

「マイコンピュータ」を右クリック - 「プロパティ」を開きます。「詳細」（または「詳細設定」）タブの「環境変数」ボタンをクリックします。

「システム環境変数」の「SYSFOL」に登録されているパス直下に存在するフォルダが xln ファイルの格納場所（下図参照）となっていることを確認してください。

システム環境変数に SYSFOL がない場合、または xln ファイルの格納場所が正しくない場合は SYSFOL を新規作成、または編集してください。

xln ファイルについては「2.2.xln ファイルの設定」を参照してください。



### 2.1.2 BizReporting 環境の確認（PrintBridge と共存する環境の場合）

BizReporting と PrintBridge は共存してご利用になります。

どちらか一方のみの環境にしたい場合は、必ず BizReporting、PrintBridge 両方をアンインストールした後、どちらか一方のみを再インストールしていただく必要があります。

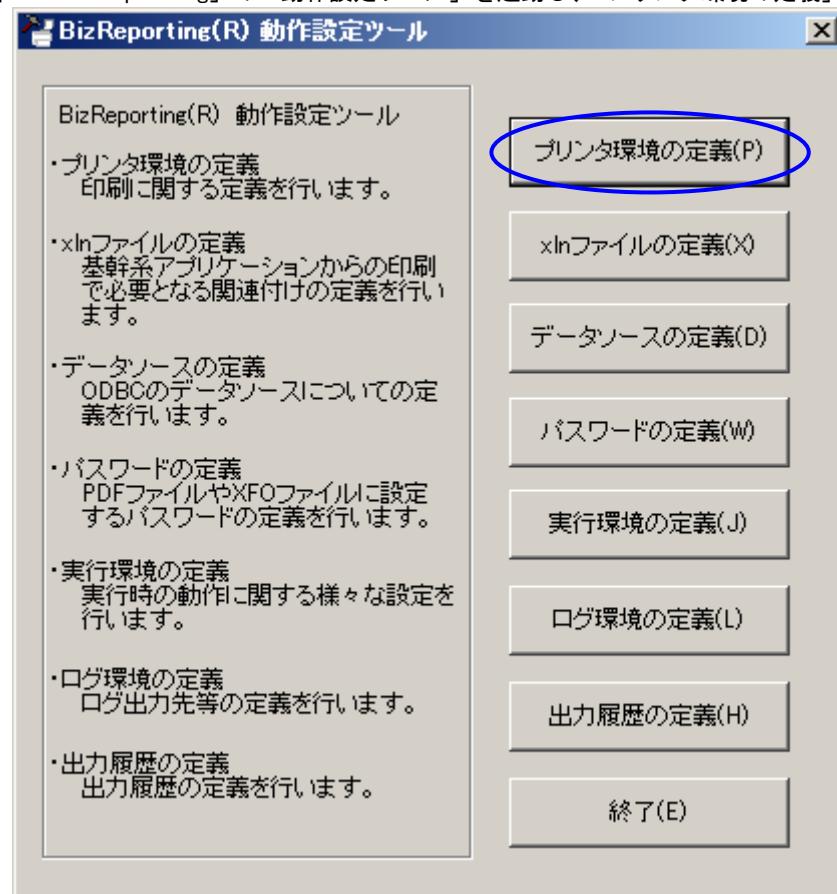
以前 BizReporting と PrintBridge が共存していた環境をご利用で、現在 BizReporting のみの環境をご利用の場合、上記手順で BizReporting の再インストールを行ったことを確認してください。

## 2.2 BizReporting の設定

### 2.2.1 デフォルトプリンタの設定

特に出力先プリンタの指定がない時に BizReporting で使用するプリンタ(デフォルトプリンタ)を設定します。

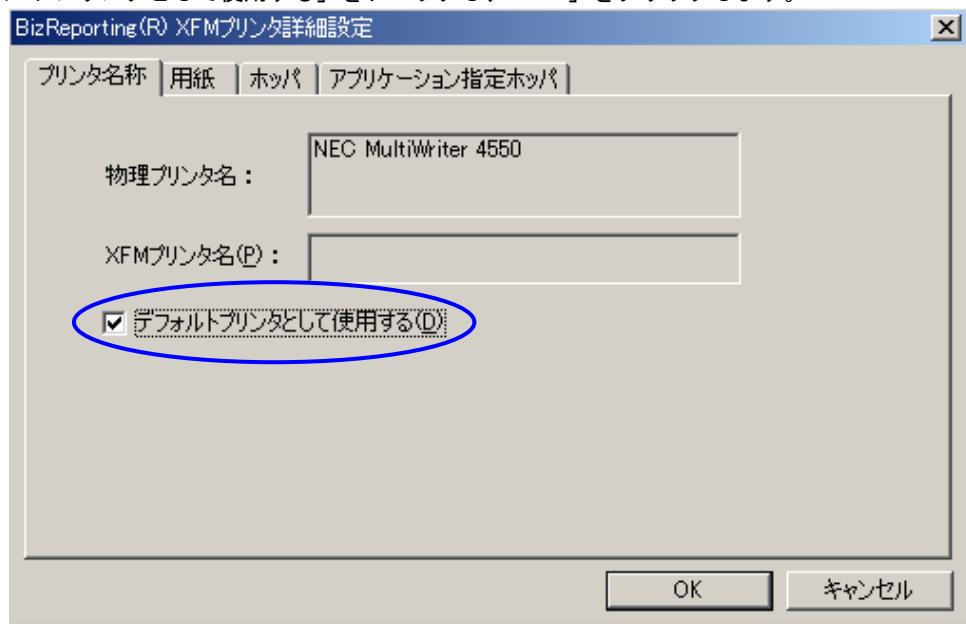
(1) 「プログラム」→「BizReporting」の「動作設定ツール」を起動し、「プリンタ環境の定義」をクリックします。



- (2) BizReporting で利用可能なプリンタの一覧が表示されます。  
デフォルトプリンタに設定するプリンタを選択し、ダブルクリックします。



- (3) 「デフォルトプリンタとして使用する」をチェックし、「OK」をクリックします。



(4) デフォルトプリンタに設定したプリンタに「○」が表示されていることを確認して「OK」をクリックします。



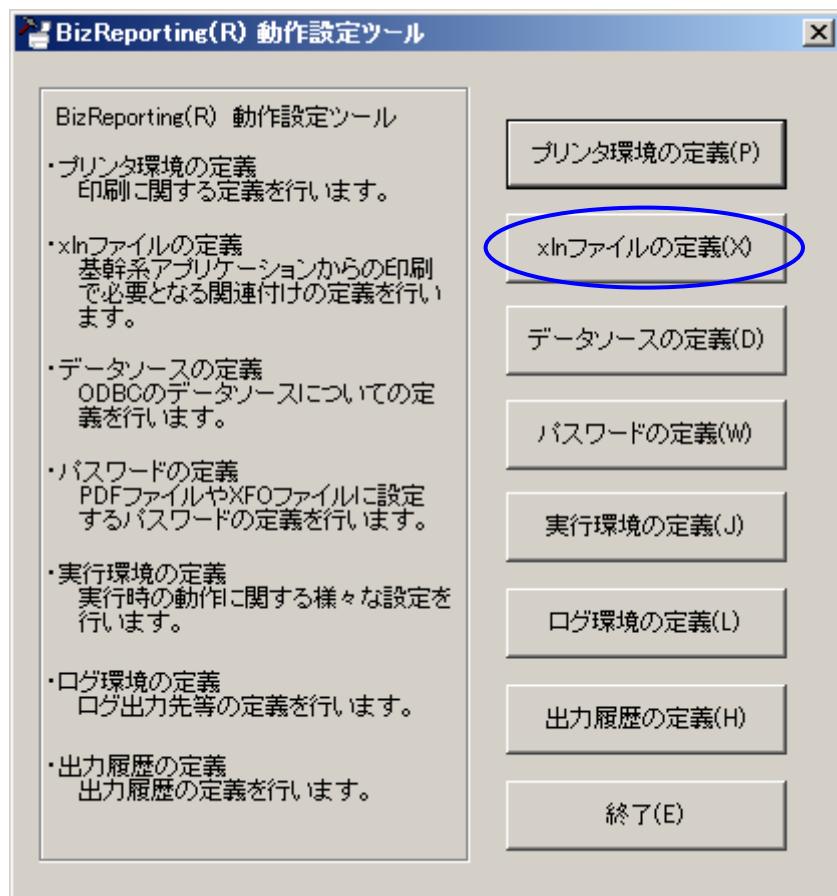
## 2.2.2 xln ファイルの設定

xln ファイルとは、COBOL ソース上のメディア ID (フォーム名) と BizReporting で使用する XFM ファイル(フォームデータ)の関連付けを行うためのファイルです。

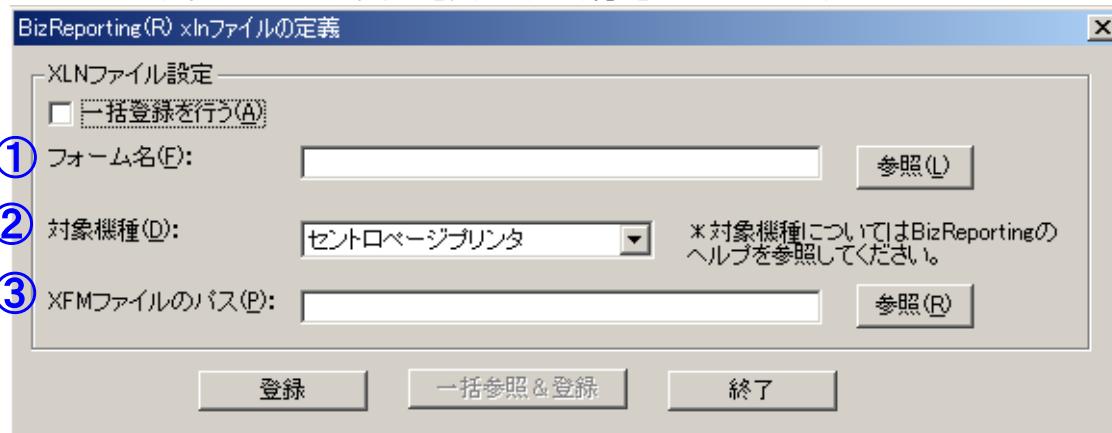
システム環境変数SYSFOLに登録されているパス(「2.1.1システム環境変数SYSFOLの確認」参照)直下に存在するフォルダが、作成したxlnファイルの格納先になります。

ここでは、xln ファイルの作成方法を説明します。

- (1) 「プログラム」→「BizReporting」の「動作設定ツール」を起動し、「xln ファイルの定義」をクリックします。



(2) xlN ファイルの定義ダイアログで各項目を設定し、「登録」をクリックします。



① フォーム名

基幹系のフォーム名を設定します。

ACOS-2 の場合、JCL 文の DEFINE で設定するフォーム名を指定します。

例) ACOS COBOL ソースのイメージ

```
000080 INPUT-OUTPUT SECTION. 内部ファイル名
000090 FILE-CONTROL.
000100   SELECT PR-F ASSIGN TO PAGE-USEROUT.
000110   I-O-CONTROL.
000120     APPLY SHIFT-CODE ON PR-F WITH PPR-CONTROL-3.
000130   *
000140   DATA DIVISION.
```

例) JCL 文のイメージ

```
¥JOB D0040030, REP=NO ;
¥REPORT ROUTE=(XXXXXXXX), MEDIA=TEMP , SZ=10 , PRI=5;
¥PRIVLIB SAMPLET@LM, MEDIA=SPLWK1;
¥STEP SMP1 ;
¥ASSIGN PAGE @OUT;
¥DEFINE PAGE, FORMSET=FORM1 FH=68, PRD=8, MEDID=BBBB, NCOPY=1 ;
¥ENDSTEP ;
¥ENDJOB ; 内部ファイル名
```

## ② 対象機種

移行前のプリンタ(※)の機種を選択します。

「2.3.1 DCS プリンタの設定」で設定する移行前のプリンタの機種名と合わせます。

選択する機種の種類ごとに決められたフォルダに、作成したxlnファイルを格納します。

※「移行前のプリンタ」とはACOS側のアプリケーションが出力先として想定しているプリンタです。

対象機種	説明	xln 格納フォルダ
セントロページ プリンタ	セントロニクス接続(BOX 経由)または LAN ボード接続のレーザ ページプリンタを、セントロページプリンタと総称します。 LCP8E、LCP30J 系列、PC-PR のページプリンタ系列、MultiWriter 系列のプリンタが含まれます。	FOL5
セントロドット インパクト/ラ インプリンタ	セントロニクス接続(BOX 経由)の日本語シリアルプリンタを セントロドットインパクトプリンタ、セントロニクス接続(BOX 経由)または LAN ボード接続のラインプリンタを、セントロラ インプリンタと総称します。 KSP100C、CKSP130C 系列、MPP100C II-B 系列、PC-PR201 系列、 KLP150C-C 系列、PC-PR のラインプリンタ系列のプリンタが含 められます。	FOL8

例) システム環境変数" SYSFOL"への登録が「D:¥SYSFOL」の場合

・xln格納用フォルダ

D:¥SYSFOL¥FOL5¥ … セントロページプリンタ用の格納場所

FOL8¥ … セントロドットインパクト/ラインプリンタ用の格納場所

## ③ XFM ファイルのパス

①で指定した基幹系のフォームと関連付ける XFM ファイル(フォームデータ)のパスを設定します。

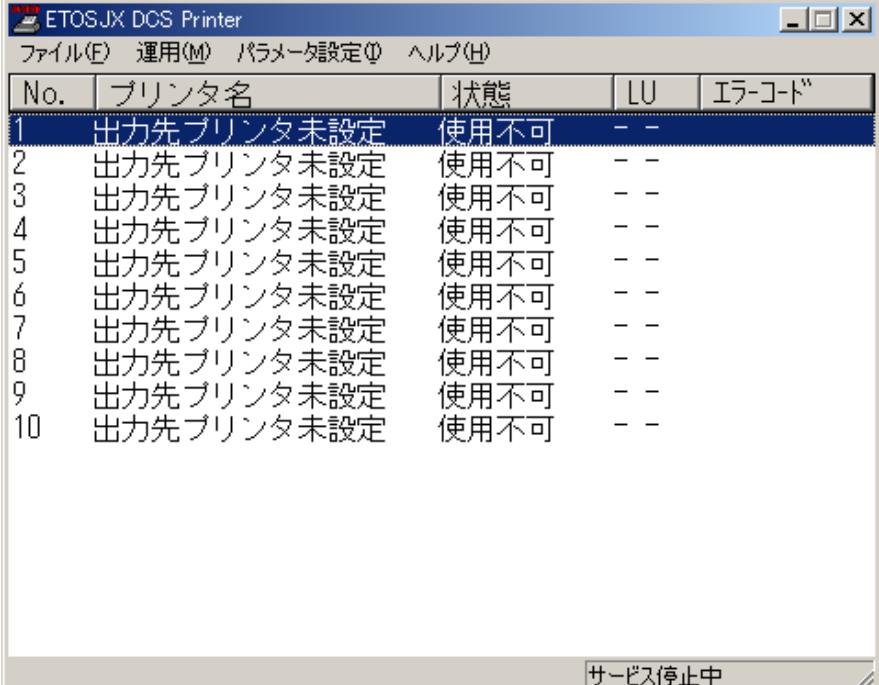
## 2.3 ETOSJX 連携

以下の設定を行います。

※ここでは ETOSJX Ver5.0 のイメージを記載します。画面の相違がある場合はご了承ください。

### 2.3.1 DCS プリンタの設定

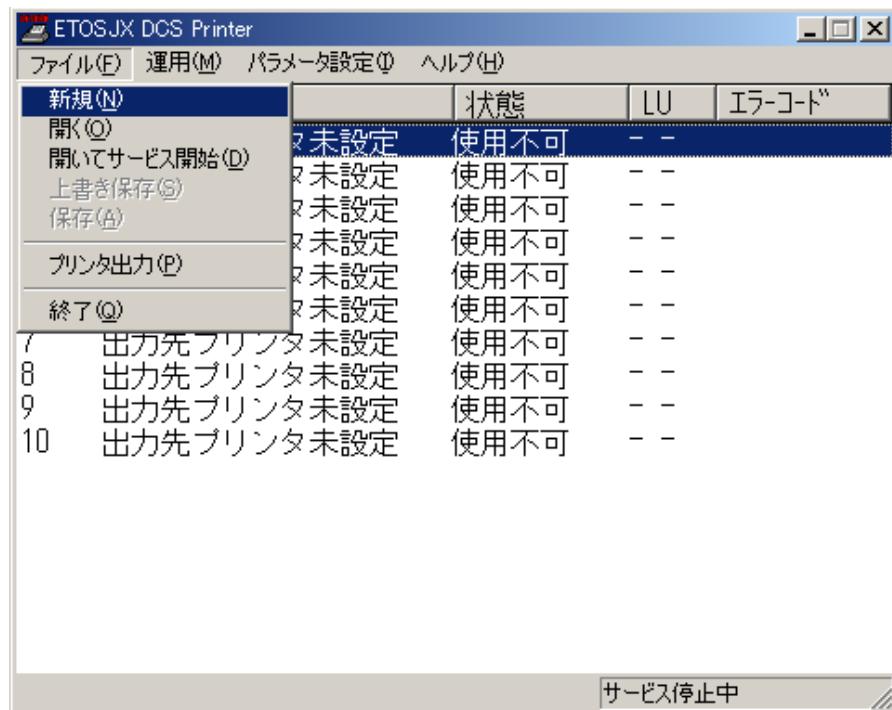
(1) 「プログラム」→「ETOSJX アプリケーション」の「DCS プリンタ」を起動します。



No.	プリンタ名	状態	LU	エラーコード
1	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
2	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
3	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
4	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
5	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
6	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
7	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
8	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
9	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
10	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	

サービス停止中

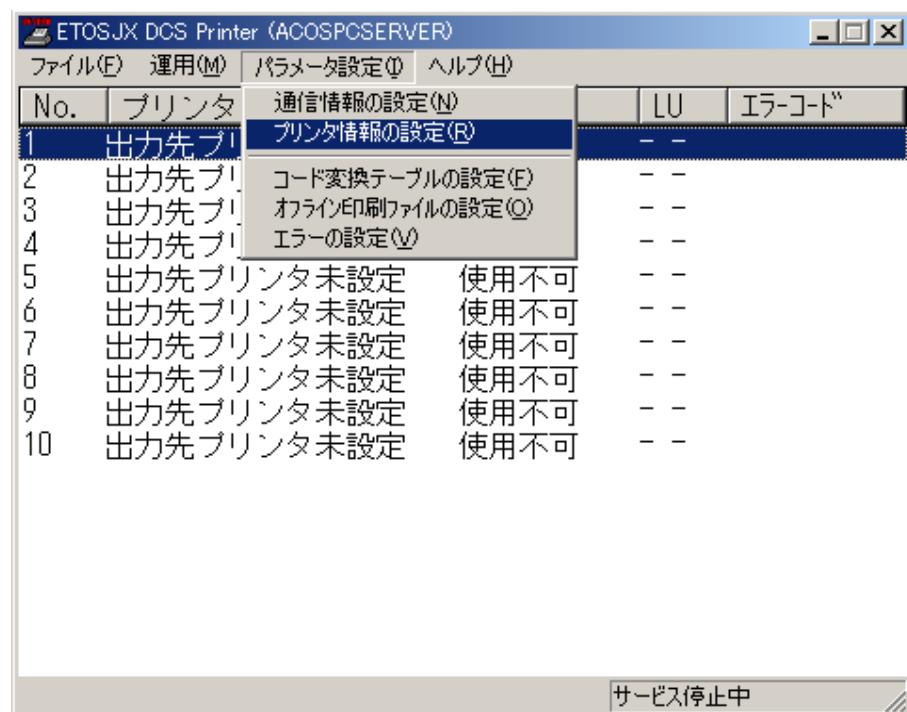
(2) 「ファイル」メニューの「新規」をクリックします。



(3) 通信リソース名と WS 番号を選択し、「OK」をクリックします。

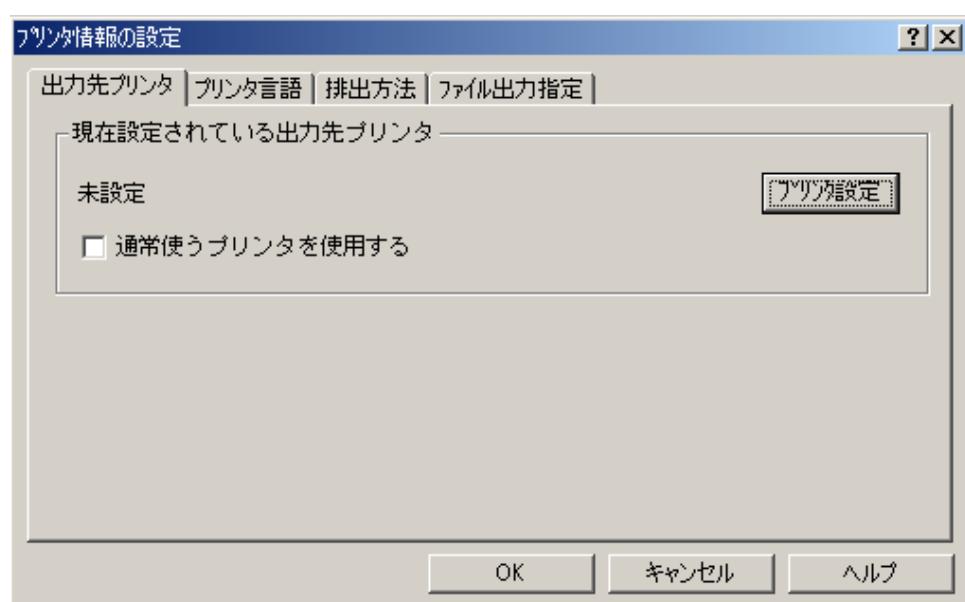


(4) 「パラメータ設定」メニューの「プリンタ情報の設定」をクリックします。

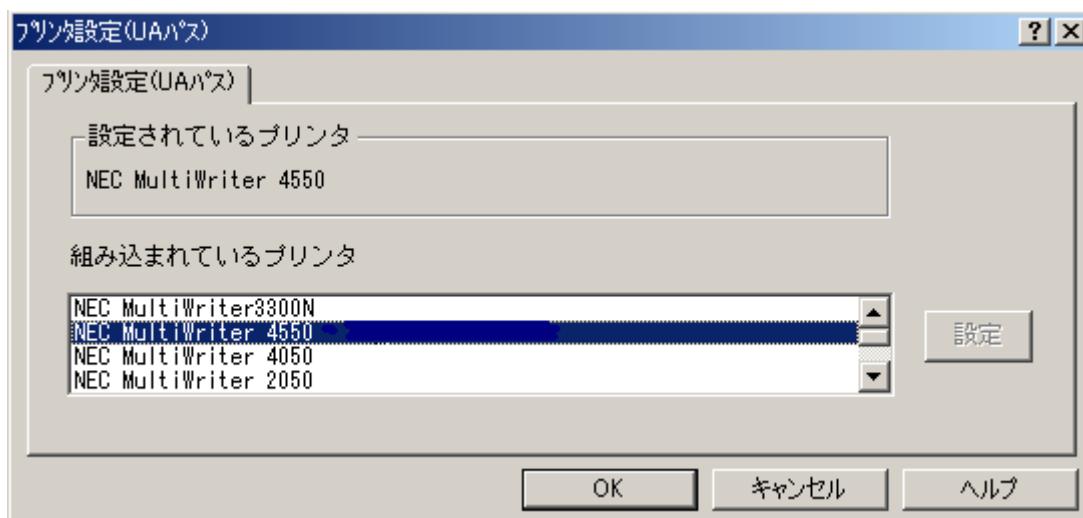


(5) 「出力先プリンタ」の設定を行います。

「プリンタ設定」をクリックします。



(6) 出力するWindows側のプリンタを選択し、「OK」をクリックします。



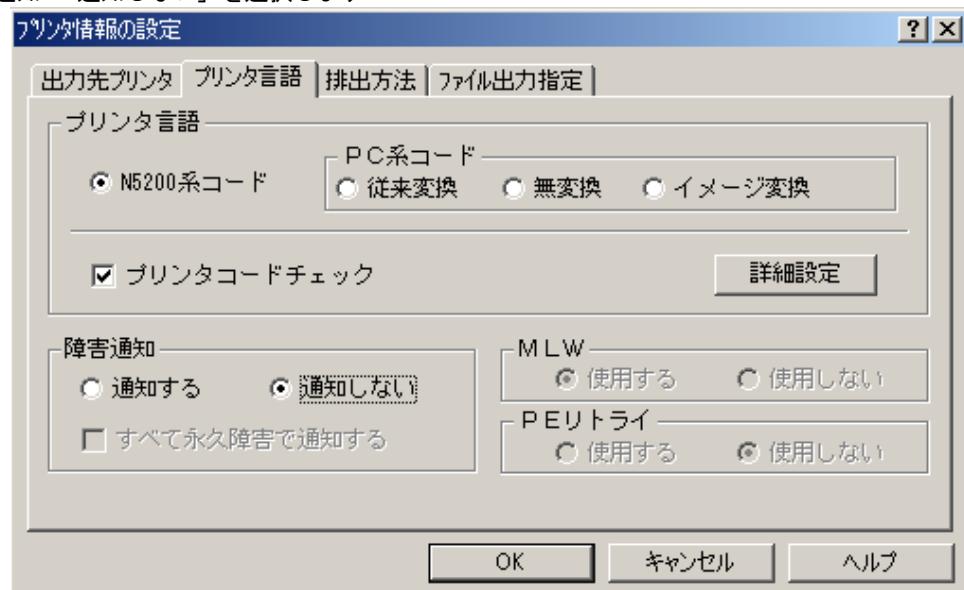
注意

「2.3.2 BizReporting プリンタの設定」と同じプリンタを設定する必要があります。

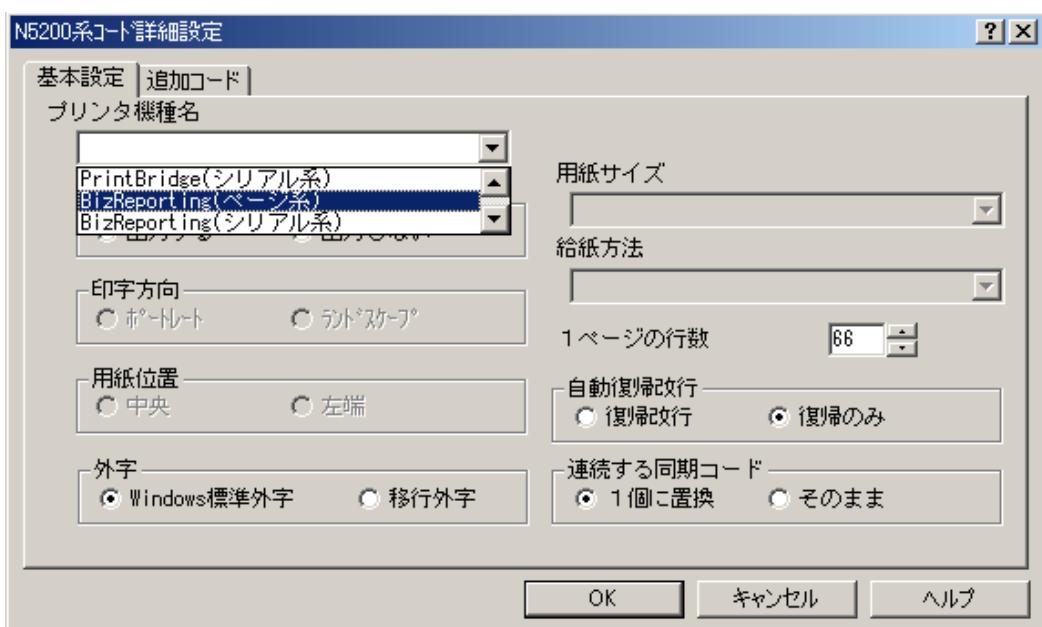
(7) 「プリンタ言語」タブをクリックします。以下の値を設定し、「詳細設定」をクリックします。

プリンタ言語：「N5200 系コード」を選択します

障害通知：「通知しない」を選択します



(8) 「プリンタ機種名」で、移行前のプリンタに合わせて「BizReporting(ページ系)」か「BizReporting(シリアル系)」のどちらかを選択し、「OK」をクリックします。

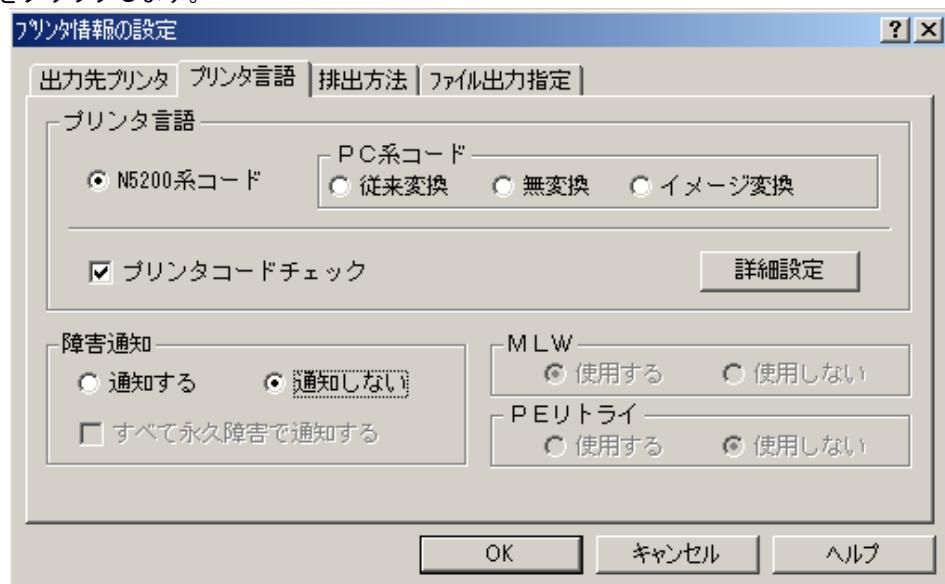


メモ

プリンタ機種名について

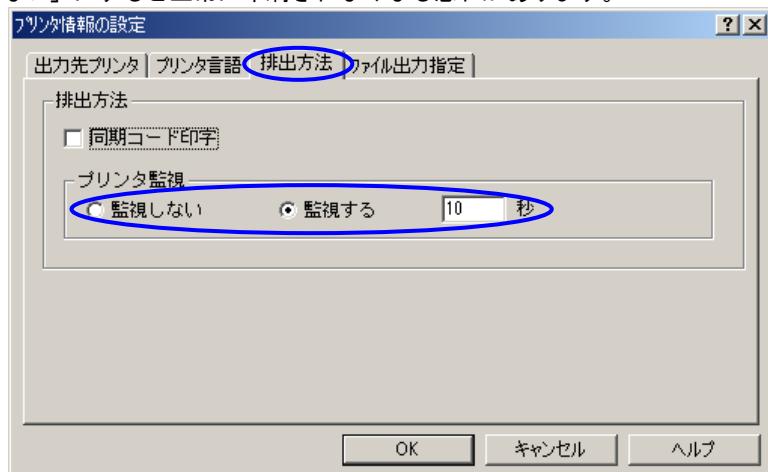
- ・「BizReporting(ページ系)」：移行前のプリンタがセントロページプリンタの場合
- ・「BizReporting(シリアル系)」：移行前のプリンタがセントロドットインパクト/ラインプリンタの場合

(9) 「OK」をクリックします。

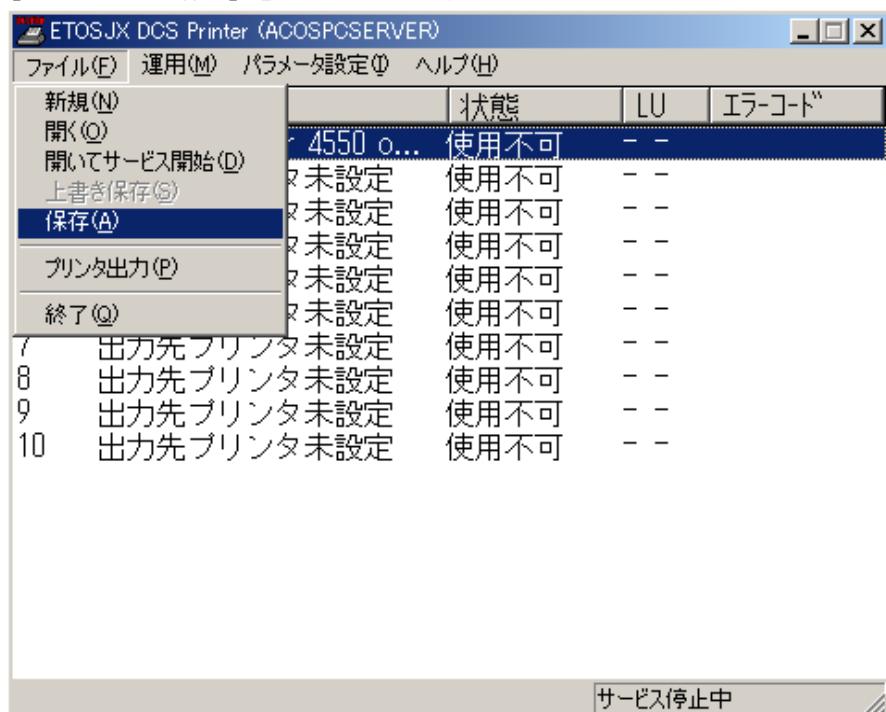


注意

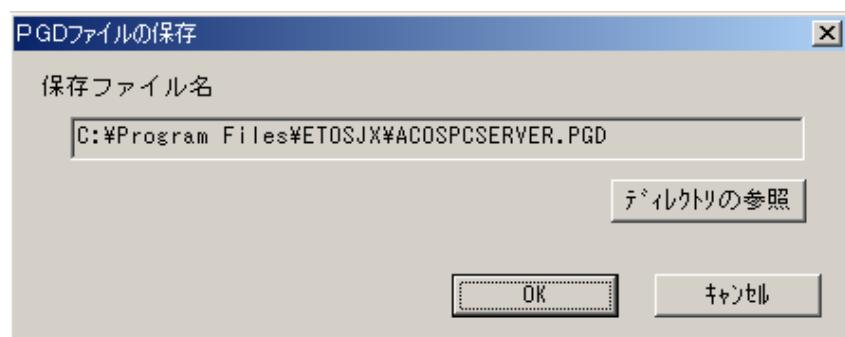
「排出方法」タブの「プリンタ監視」は「監視する」（デフォルトのまま）にします。  
「監視しない」にすると正常に印刷されなくなる恐れがあります。



(10) 「ファイル」メニューの「保存」をクリックします。



(11) 保存ファイル名を確認し、「OK」をクリックします。



ETOSJX DCS Printer (ACOSPCSERVER)				
No.	プリンタ名	状態	LU	エラーコード
1	NEC MultiWriter 4550 o...	使用不可	--	
2	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
3	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
4	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
5	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
6	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
7	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
8	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
9	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
10	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	

サービス停止中

(12) 「運用」メニューの「プリンタサービス開始」をクリックします。

ETOSJX DCS Printer (ACOSPOSERVER)

No.	プリンタ名	状態	LU	エラーコード
1	NEC MultiWriter 4550 o...	使用不可	--	
2	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
3	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
4	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
5	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
6	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
7	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
8	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
9	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
10	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	

サービス停止中

(13) 設定したプリンタが「印刷可」になっていることを確認します。

ETOSJX DCS Printer (ACOSPOSERVER)

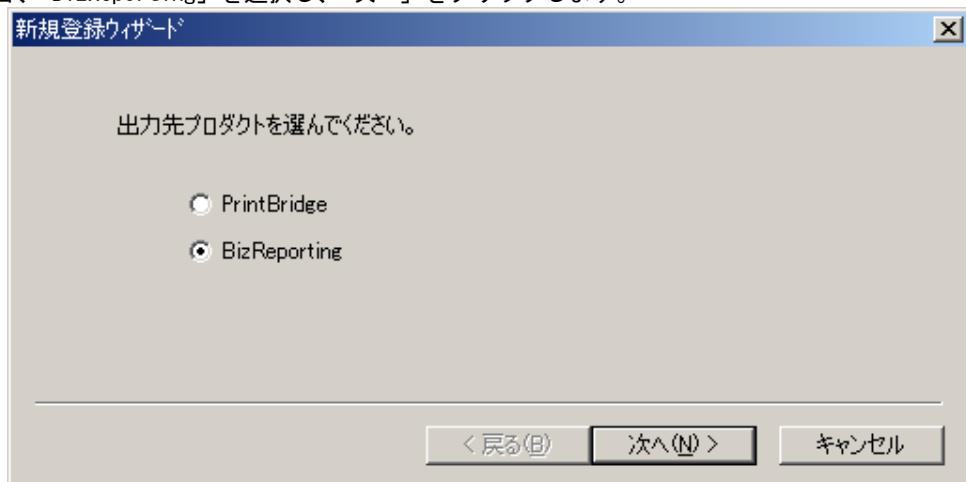
No.	プリンタ名	状態	LU	エラーコード
1	NEC MultiWriter 4550 o...	印刷可	24	
2	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
3	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
4	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
5	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
6	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
7	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
8	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
9	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
10	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	

サービス実行中

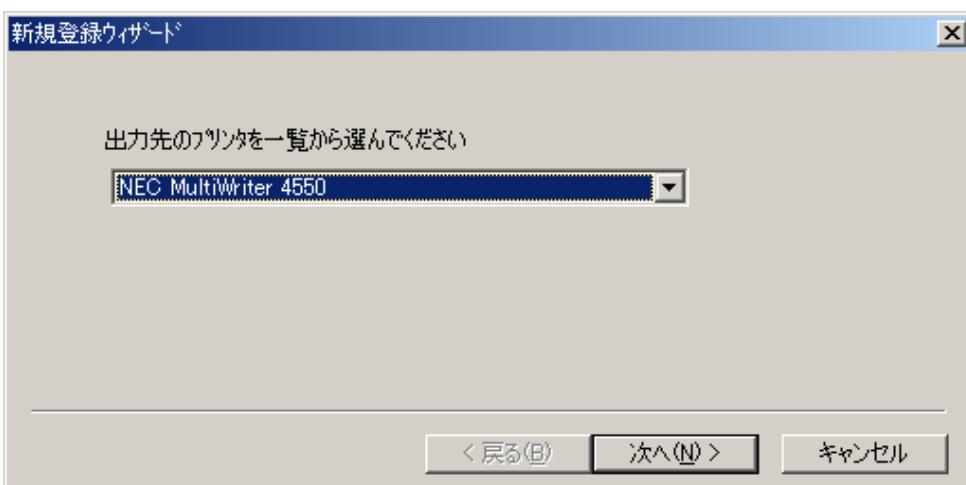
### 2.3.2 BizReporting プリンタの設定

「2.3.1 DCS プリンタの設定」で設定した DCS プリンタと Windows 側のプリンタの関連付けを行います。関連付けを行うことにより、DCS プリンタに出力したデータが、Windows 側のプリンタに出力されるようになります。

- (1) 「プログラム」→「BizReporting」の「プリンタ設定ツール (PICMIN)」を起動します。  
PrintBridge と BizReporting を両方インストールしている場合は、出力先プロダクトの選択画面を表示します。  
この場合、「BizReporting」を選択し、「次へ」をクリックします。



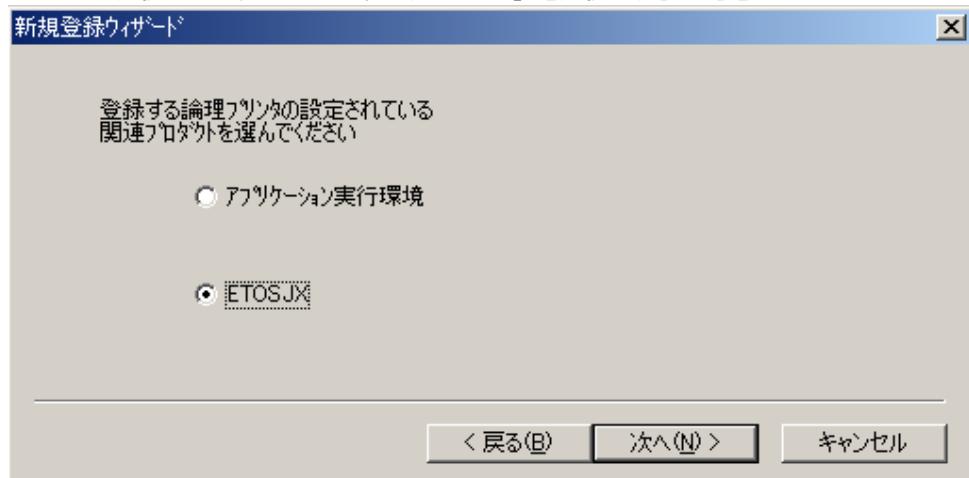
- (2) 「2.3.1 DCS プリンタの設定」で設定したプリンタを選択して「次へ」をクリックします。



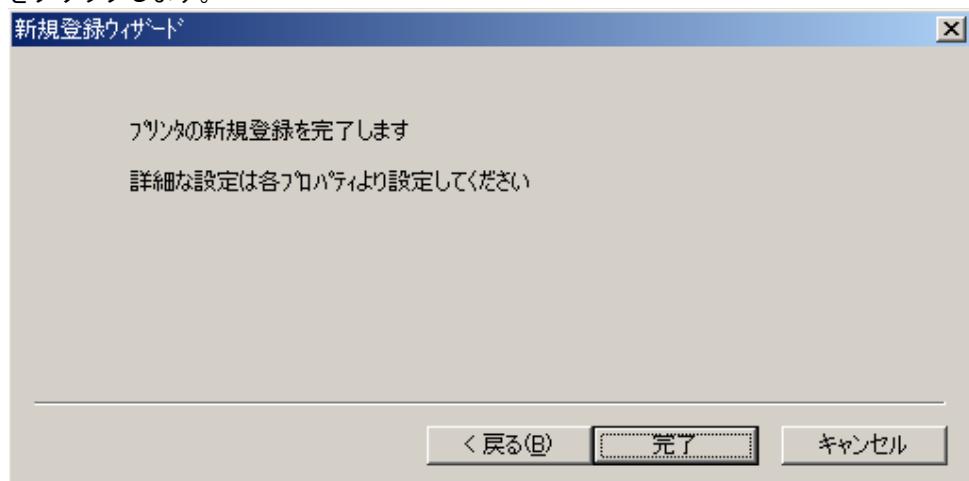
注意

出力先のプリンタで「Default」を選択しないでください。

(3) 関連プロダクトの選択画面が表示された場合、「ETOSJX」を選択し、[次へ]をクリックしてください。



(4) 「完了」をクリックします。



(5) 登録内容が追加されたことを確認します。



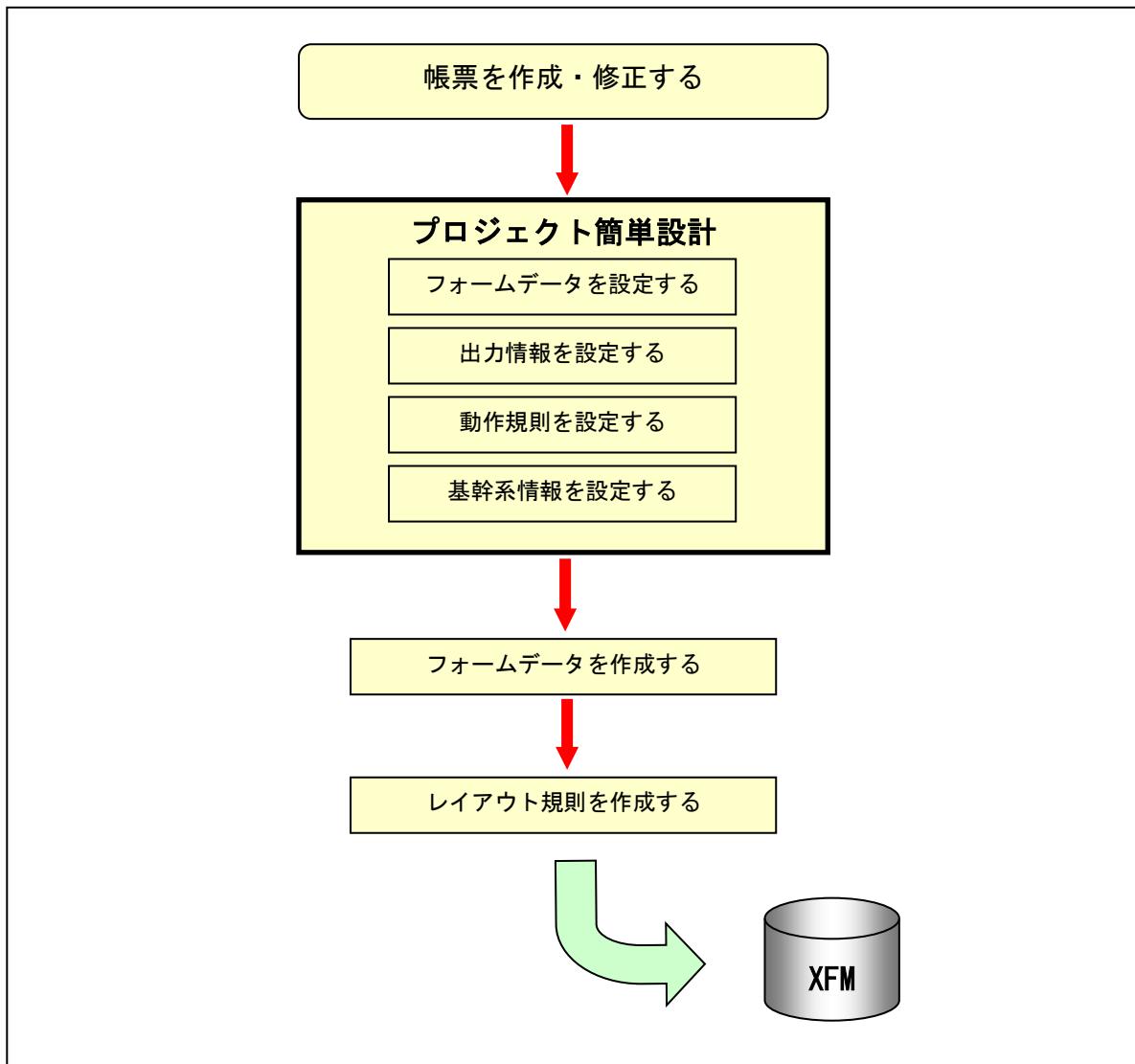
### 2.3.3 確認方法

BizReporting 経由で印刷を行い、「2.3.2 BizReporting プリンタの設定」で設定した Windows 側のプリンタに出力されることを確認します。

# 3 帳票設計編

本章では VISUALFORMS for BizReporting でプロジェクト簡単設計を利用した帳票設計方法を説明します。作成した帳票（XFM ファイル）を BizReporting に適用することで、ユーザデータと VISUALFORMS for BizReporting で設計した表現力の高いフォームデータのオーバーレイ結果を印刷することができます。

VISUALFORMS for BizReporting を利用した帳票設計の流れ

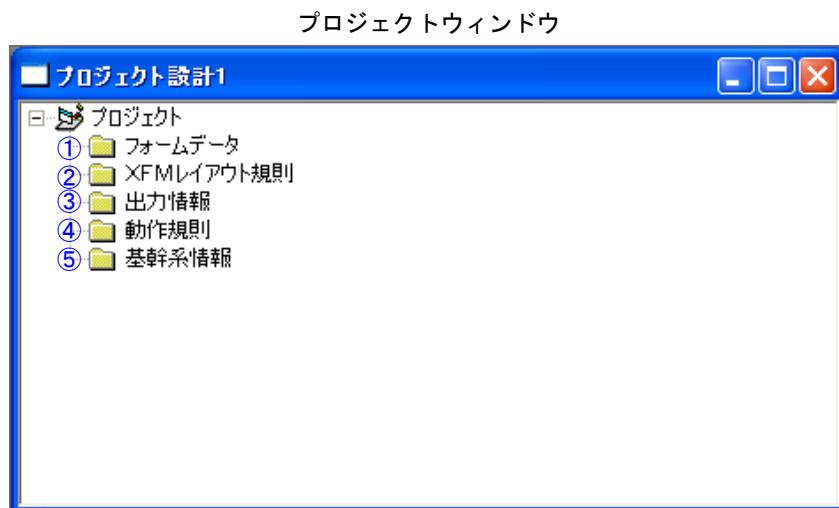


太枠内の機能について、本編で記載しています。

### 3.1 概要

#### ・プロジェクト構成情報

VISUALFORMS for BizReporting では BizReporting で利用するプロジェクト（XFM ファイル）を作成します。プロジェクトは以下の 5 つの情報を含み、運用形態に合わせてそれぞれの情報を設計します。



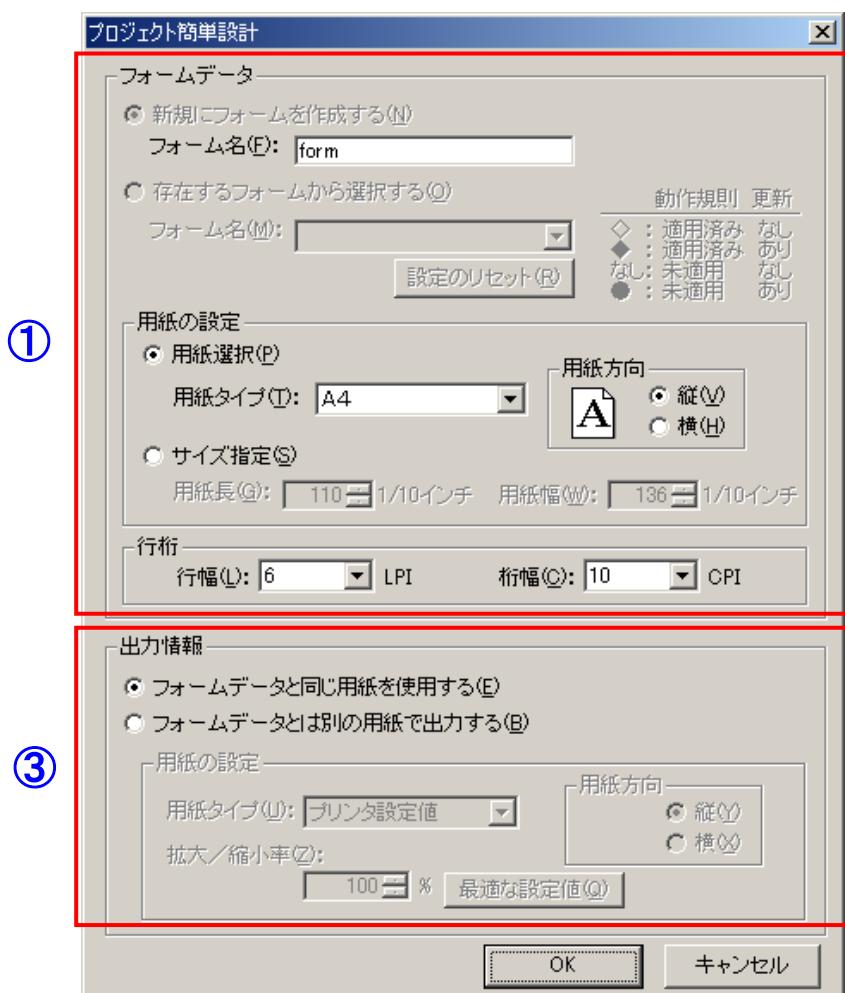
	情報名	説明	プロジェクト簡単設計の処理
①	フォームデータ	帳票のデザインです。 図形、見出し文字などの帳票の固定情報に関する設計を行います。	空のフォームデータ（“form”）を作成します。
②	XFM レイアウト規則	ユーザデータのレイアウト変換の規則です。	処理を行いません。
③	出力情報	帳票の出力形式です。 プリンタ出力方法を設定します。	プリンタ出力用の出力情報（“EasyPrint”）を作成します。
④	動作規則	帳票出力環境での動作規則です。 利用するフォームデータ、出力情報、XFM レイアウトなどの運用に沿った動作規則（組み合わせ）を設定します。	①のフォームデータ（“form”）と③のプリンタ出力情報（“EasyPrint”）を適用した規則（“role01”）を作成します。
⑤	基幹系情報	ACOS からの出力に関する情報です。 ACOS からの出力に関する情報を設定します。	用紙サイズに従い、基幹系情報（“userdata01”）を作成します。

プロジェクト簡単設計では、上記 5 つの情報のうち、「XFM レイアウト規則」と「フォームデータ」のデザインを除いた情報を一度に設定します。

・プロジェクト簡単設計ダイアログ

「ファイル」→「プロジェクトの新規作成」を選択します。

プロジェクト簡単設計ダイアログを表示します。



プロジェクト簡単設計ダイアログでは、プロジェクト構成情報のうち、「①フォームデータ」、「③出力情報」の設定を行います。

①フォームデータ

・フォーム情報

新規フォーム名を指定、または修正する既存のフォーム名を選択します。

・用紙情報

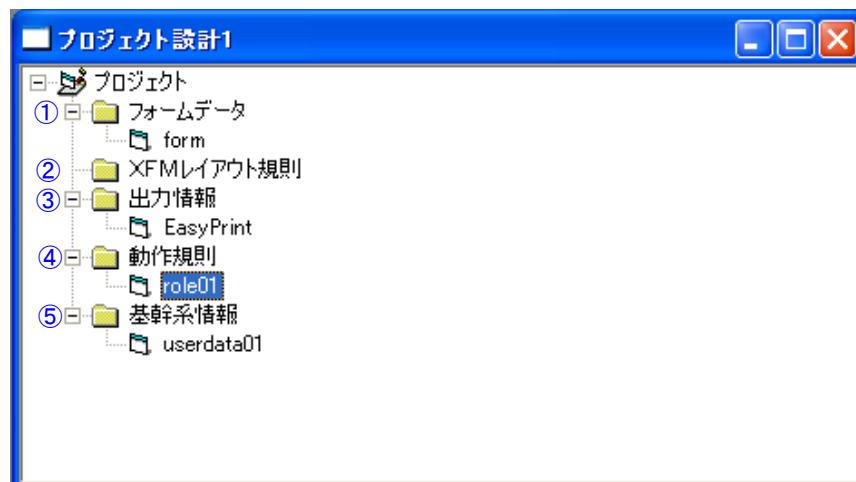
帳票の用紙情報（用紙タイプ、方向、用紙サイズ、行幅）を設定します。

③出力情報

プリンタ出力時の情報（用紙タイプ、方向、倍率）を設定します。

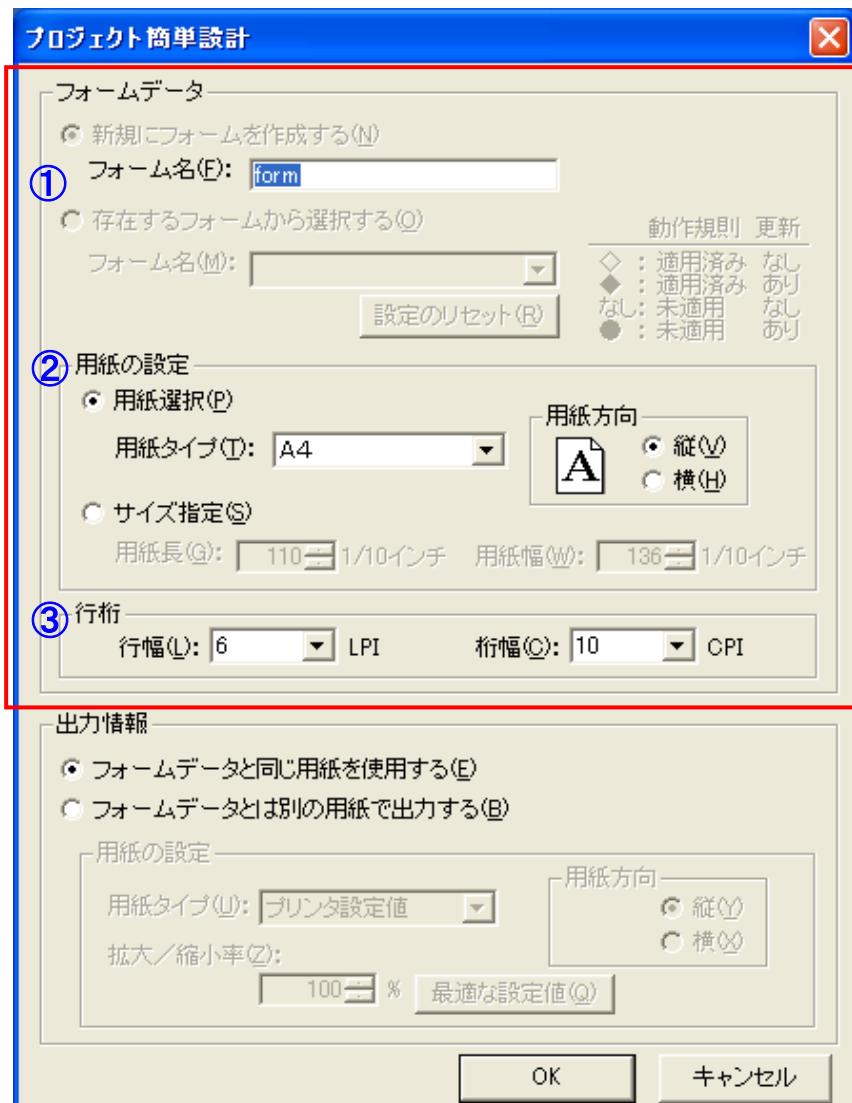
「OK」ボタンでダイアログを閉じると、ダイアログで設定した内容で「①フォームデータ」、「③出力情報」を作成します。さらに「④動作規則」、「⑤基幹系情報」を自動で作成します。

プロジェクトウィンドウ(プロジェクト簡単設計使用後)



## 3.2 フォームデータの設定

フォームデータ名や設計用紙サイズを設定します。



### ① フォームデータの設定

設計対象の帳票（フォームデータ）を設定します（「3.2.1 フォームデータの設定」参照）。

### ② 用紙の設定

帳票の設計用紙サイズを設定します（「3.2.2 用紙の設定」参照）。

### ③ 行桁の設定

帳票の行幅と桁幅を設定します（「3.2.3 行桁の設定」参照）。

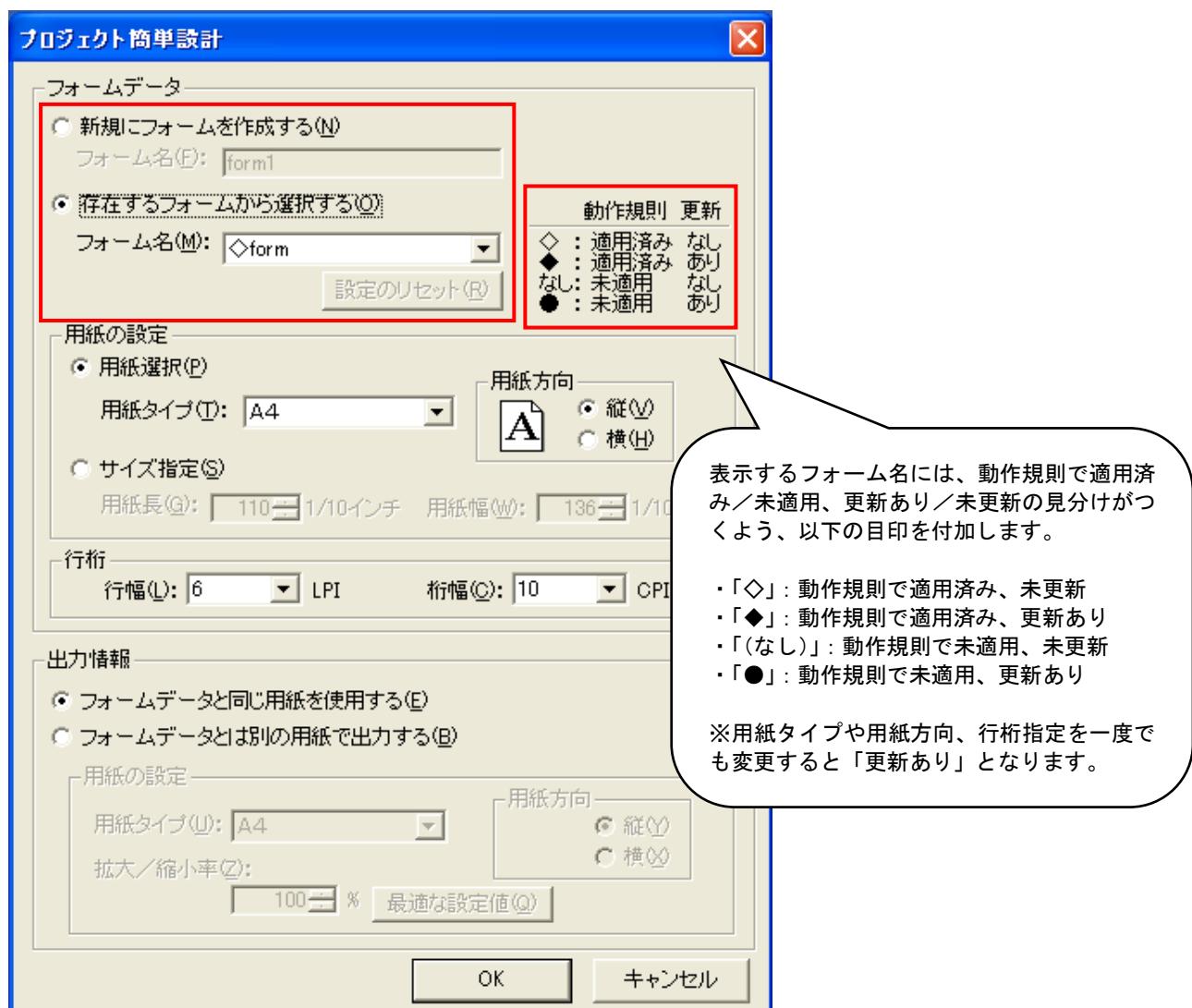
### 3.2.1 フォームデータの設定

設計対象のフォームデータを設定します。

プロジェクト内に既にフォームデータが存在する場合、「新規にフォームを作成する」と「存在するフォームから選択する」の選択が可能になります。

「新規にフォームを作成する」を選択した場合、フォーム名を指定します。指定したフォーム名でフォームデータが作成され、動作規則に適用されます。

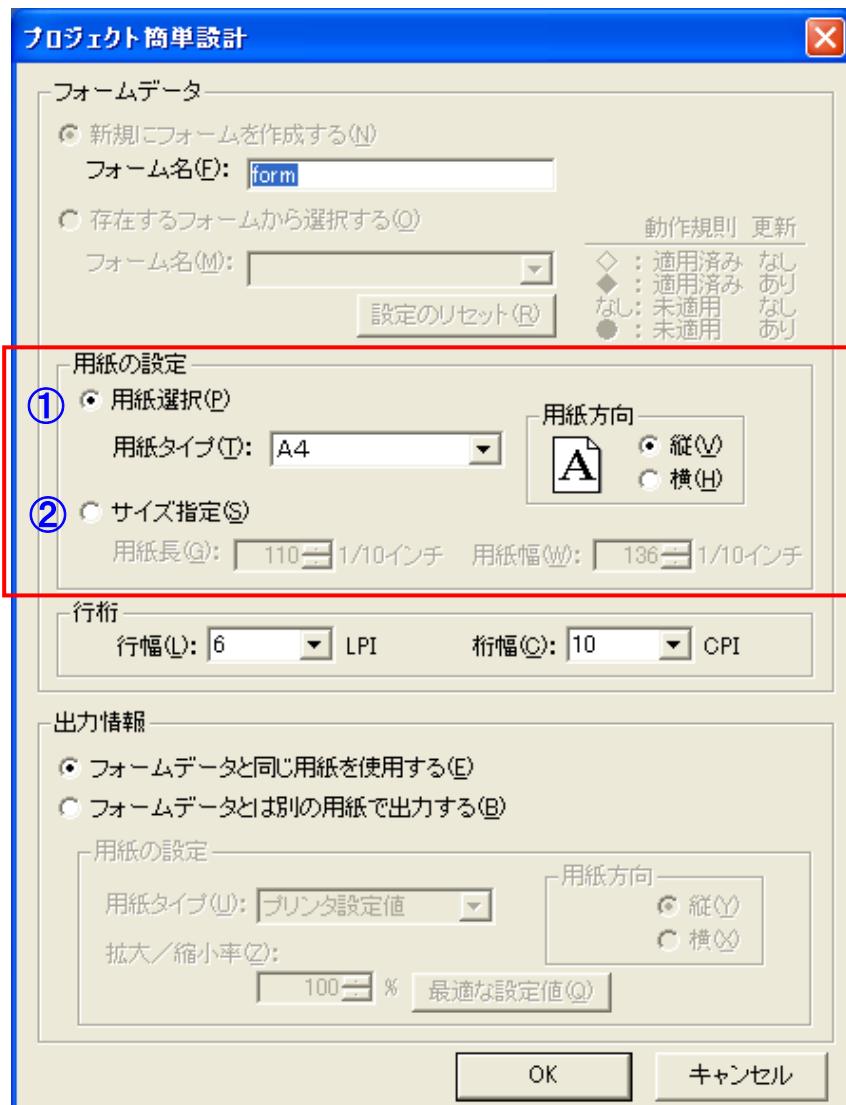
「存在するフォームから選択する」を選択した場合、既に存在するフォーム名の一覧からフォームデータを選択します。選択したフォームデータが動作規則未適用の場合、動作規則に適用されます。



### 3.2.2 用紙の設定

帳票の設計用紙を設定します。

定型サイズの用紙を設定する場合は「用紙選択」を、任意のサイズの用紙を指定する場合は「サイズ指定」を選択します。用紙の設定で指定した用紙サイズが、フォームデータの用紙サイズとなります。



#### ①用紙選択

定型サイズの帳票の設計用紙タイプ、用紙方向を選択します。

※出力時の用紙タイプ、用紙方向については、「3.3 出力情報の設定」で設定します。

##### ・用紙タイプ

以下の用紙タイプから選択します。

A3、A4、A5、B4、B5、帳票、はがき、レター

**メモ**

用紙タイプ「帳票」のサイズは、基幹系帳票印刷で利用する連続紙帳票サイズです。

用紙長 11 インチ、用紙幅 13.6 インチ（用紙方向 横を指定）の用紙サイズです。

・用紙方向

帳票の設計用紙の縦方向、または横方向を選択します。

②サイズ指定

任意のサイズの帳票を指定する場合に、用紙長と用紙幅を 1/10 インチ単位で指定します。

宅配伝票などの連続用紙、ラベルプリンタ用の特殊な用紙、「①用紙選択」で選択できない用紙サイズの場合に利用します。

例) 縦 5 インチ、横 8 インチの宅配伝票の場合、以下の数値を設定します。

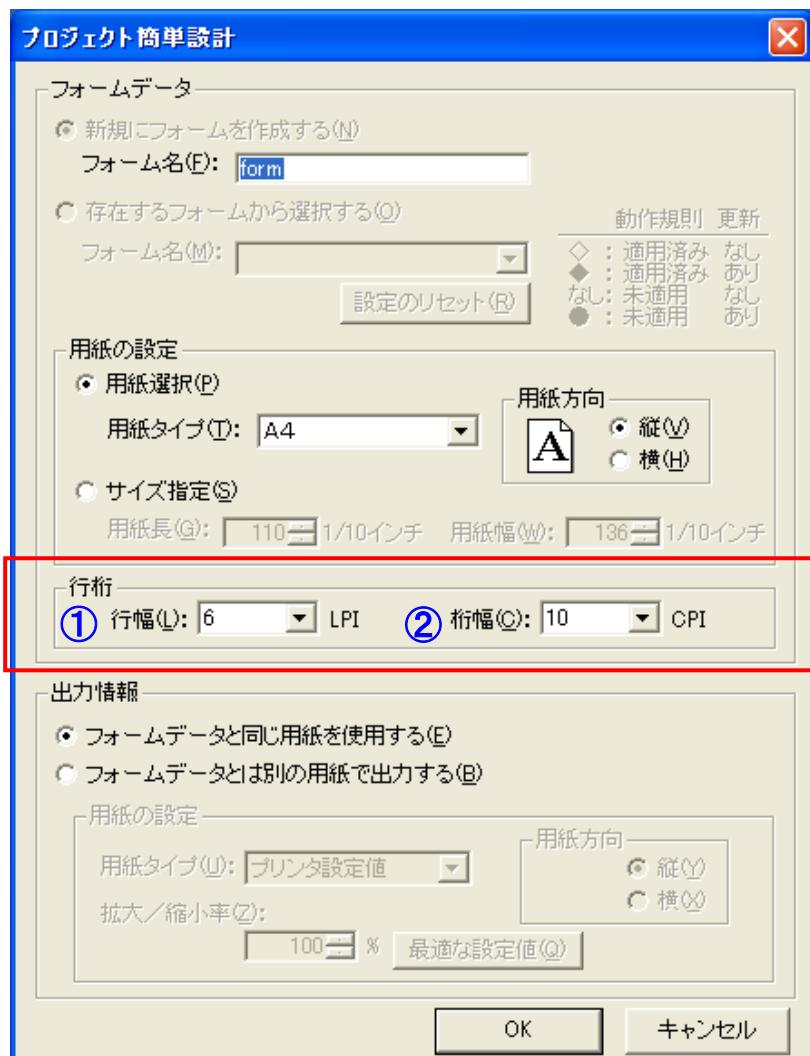
用紙長 50

用紙幅 80

### 3.2.3 行桁の設定

帳票の行幅と桁幅を指定します。

指定した値がフォームデータデザイン時のグリッド／ガイドの単位の値、および、基幹系情報の行幅、桁幅となります。



#### ① 行幅（単位 LPI）

フォームデータの設計領域の行幅。1インチ当たりの行数を指定します。

選択可能な値 3, 4, 6, 8, 12, 24

#### ② 桁幅（単位 CPI）

フォームデータの設計領域の桁幅。1インチ当たりの文字数を指定します。

選択可能な値 10, 12, 15

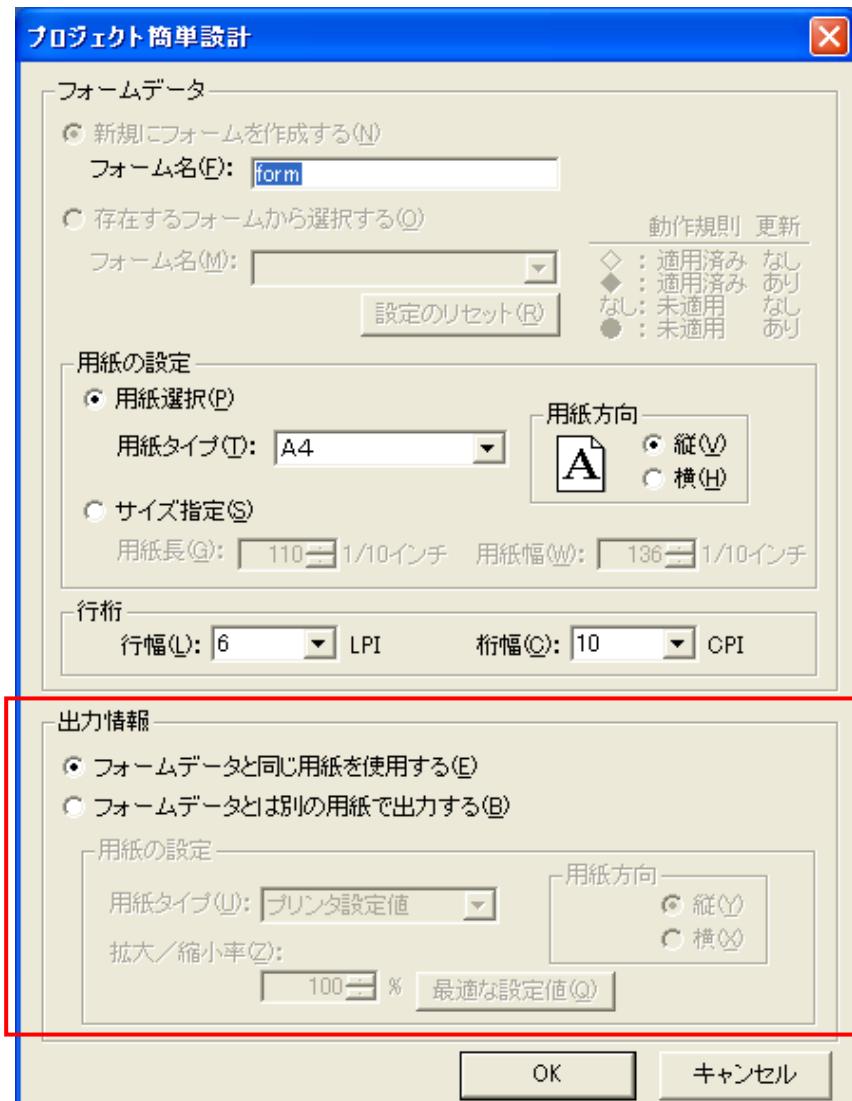
#### 例) 桁幅 12CPI の場合

1インチ当たり、12文字の桁幅です。

用紙幅が11インチの場合、帳票の全桁数は、132桁となります。

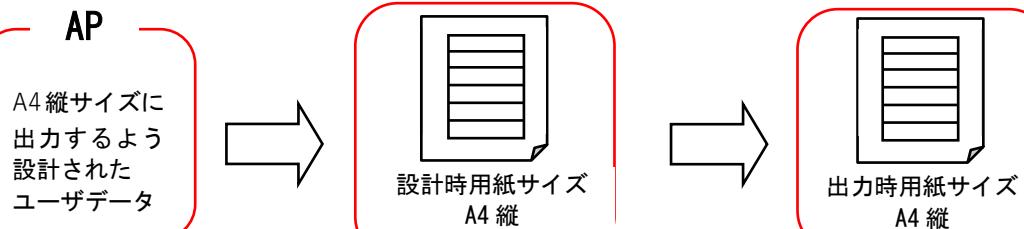
### 3.3 出力情報の設定

帳票出力時の用紙サイズを指定します。



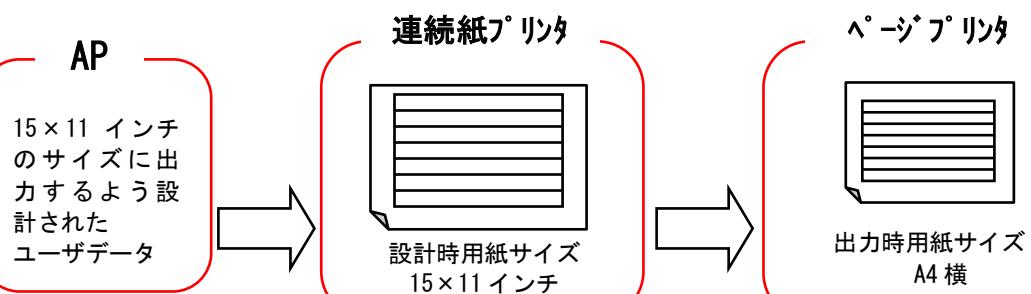
- ・フォームデータと同じ用紙を使用する  
「3. 2. 2 用紙の設定」で指定した設計時の用紙サイズ、用紙方向で出力する場合に指定します。

例) フォームデータと同じ用紙を使用する

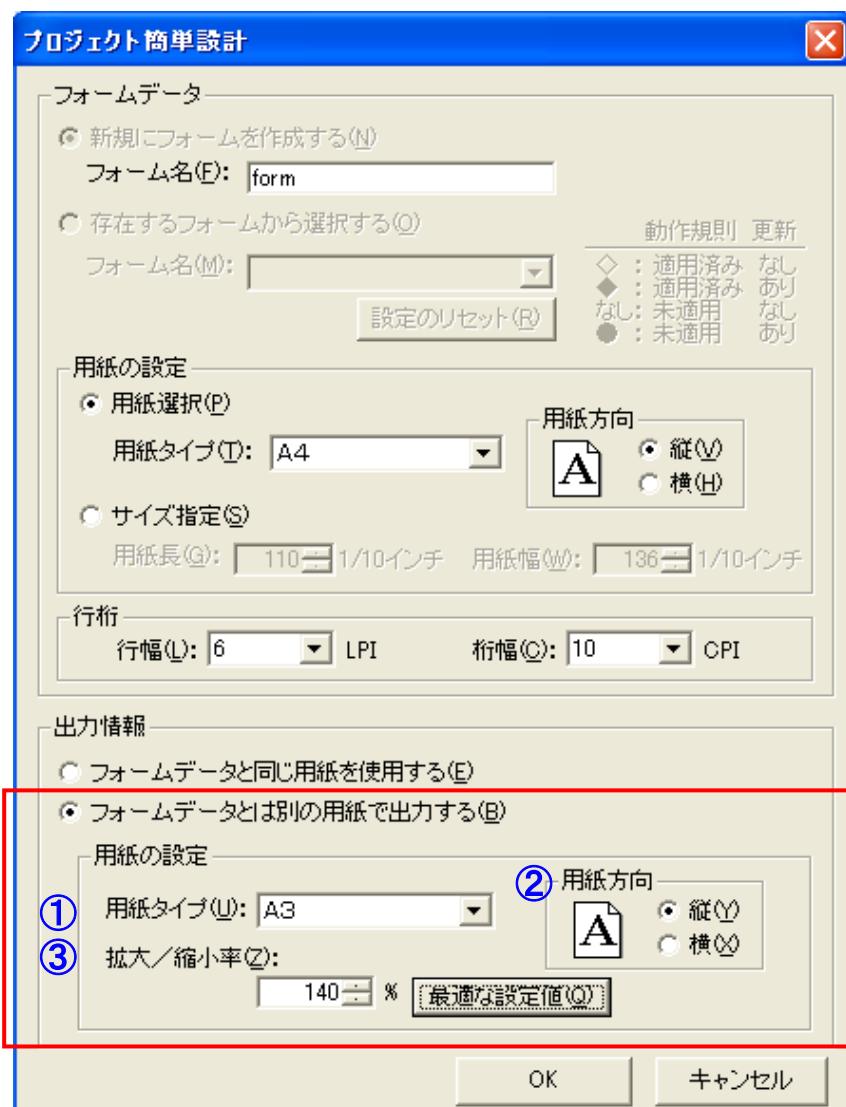


- ・フォームデータとは別の用紙で出力する  
「3. 2. 2 用紙の設定」で指定した設計時の用紙サイズ、用紙方向とは異なる用紙で出力する場合に指定します。

例) 連続紙で設計した用紙を A4 横に出力する



以下の項目を設定します。



### ① 用紙タイプ

プリンタ出力の用紙タイプを選択します。

用紙タイプ	説明
プリンタ設定値	出力環境の出力プリンタのデフォルト用紙サイズ(※)で出力します
A 3	A3 用紙で出力します
A 4	A4 用紙で出力します
A 5	A5 用紙で出力します
B 4	B4 用紙で出力します
B 5	B5 用紙で出力します
user01～user20	出力環境の動作設定ツールの「プリンタ環境の定義」で user01～user20 に定義されている用紙サイズで出力します

※デフォルト用紙サイズ

プリンタのプロパティで印刷する時点で設定されている用紙サイズです。



## 注意

### ● 帳票出力環境の指定可能用紙について

定型サイズ以外の用紙サイズで設計した帳票は、出力時に指定した用紙がプリンタの用紙と関連付けられている必要があります。そのため、出力時の用紙サイズとして、用紙タイプ user01～user20 を選択し、出力環境の動作設定ツールでの目的の用紙サイズと用紙タイプ(user01～user20)の定義付けを行ってください。定義付けを行っていない場合は出力されません。(イベントログにエラーを表示します。)

※用紙タイプ user01～user20 の設定については「4.1.3 横 13.6 インチ、縦 11 インチの帳票を連続紙プリンタに出力したい場合」を参照してください。

### ② 用紙方向

プリンタ出力の用紙方向を設定します。用紙の縦方向、または横方向を選択します。

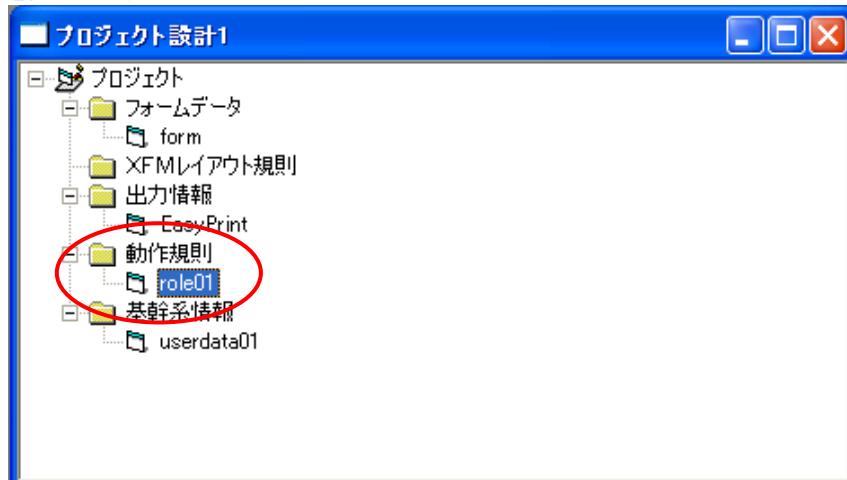
### ③ 拡大／縮小率

プリンタ出力の拡大／縮小率を設定します。

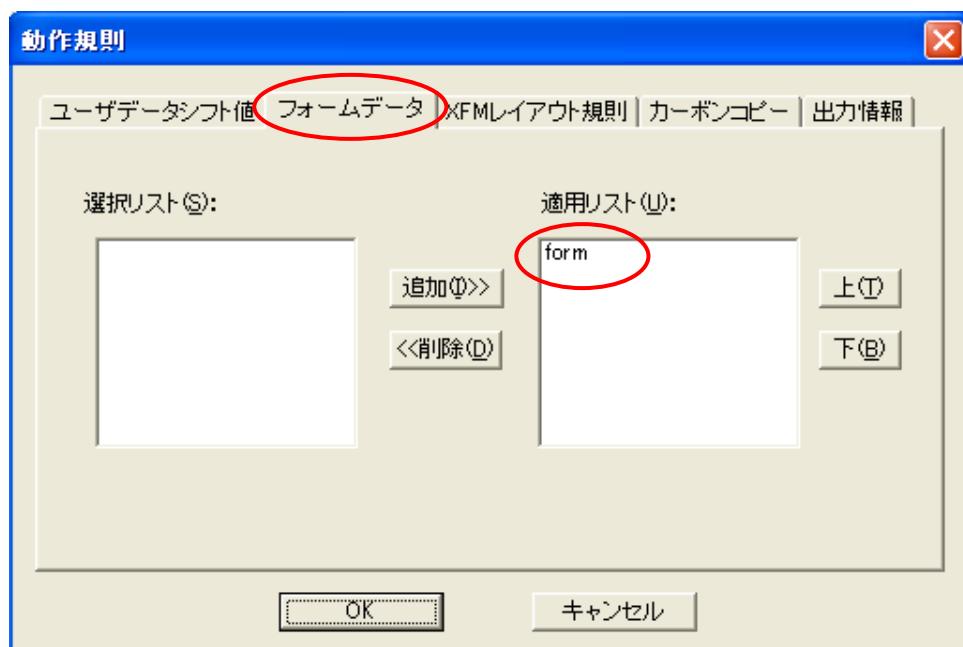
### 3.4 動作規則の設定

プロジェクト簡単設計は、利用するフォームデータ、出力情報などの動作規則（組み合わせ）を自動で作成します。動作規則には対象のフォームデータと出力情報「EasyPrint」を自動で適用します。

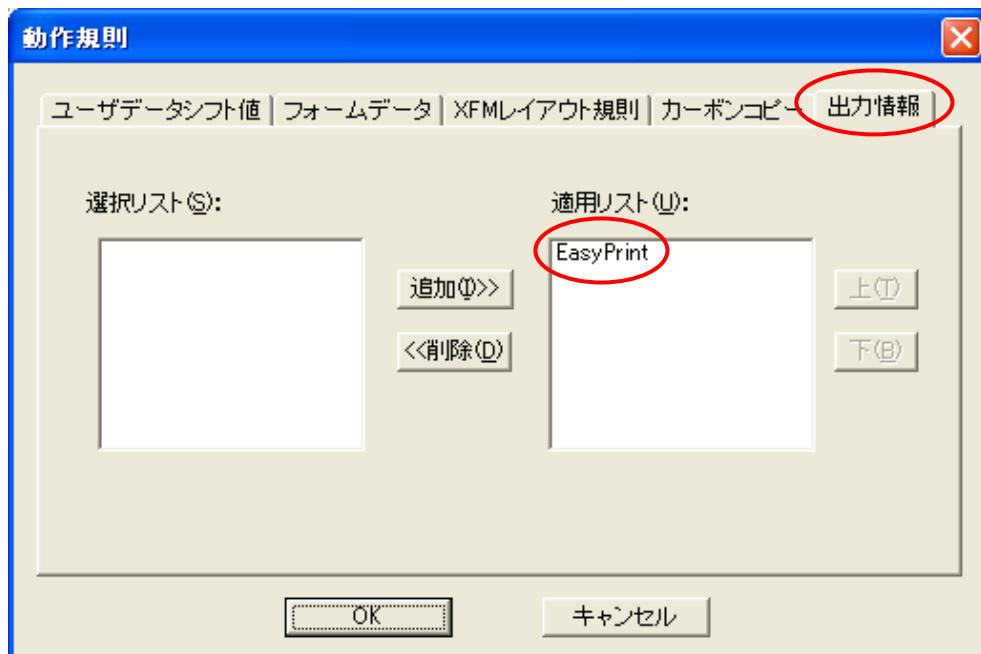
動作規則の内容を確認、または編集する場合はプロジェクトウィンドウの「動作規則」－「role01」をダブルクリックし、動作規則ダイアログを開きます。



「フォームデータ」タブで動作規則に適用するフォームデータの追加／削除を行います。  
プロジェクト簡単設計後は「適用リスト」に対象のフォームデータが自動で適用されます。



「出力情報」タブで動作規則に適用する出力情報の追加／削除を行います。  
プロジェクト簡単設計後は「適用リスト」に「EasyPrint」が自動で適用されます。



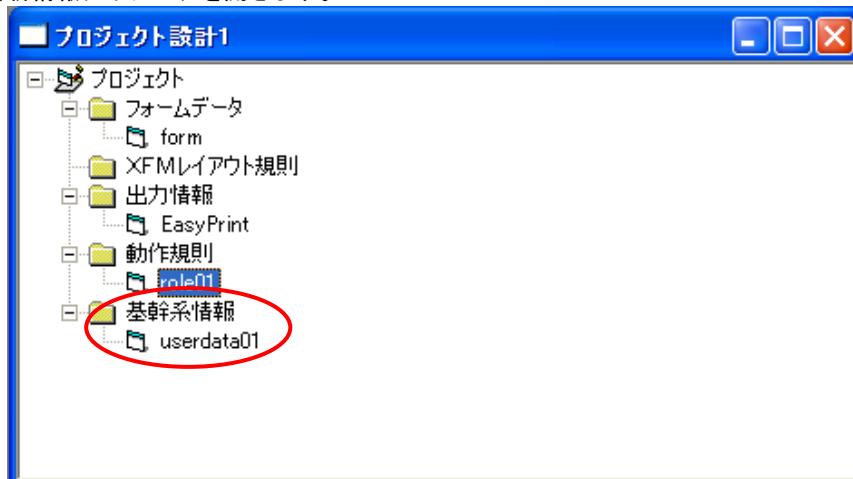
### 3.5 基幹系情報の設定

プロジェクト簡単設計は、従来基幹系からの出力に関する制御解析情報を自動で作成します。

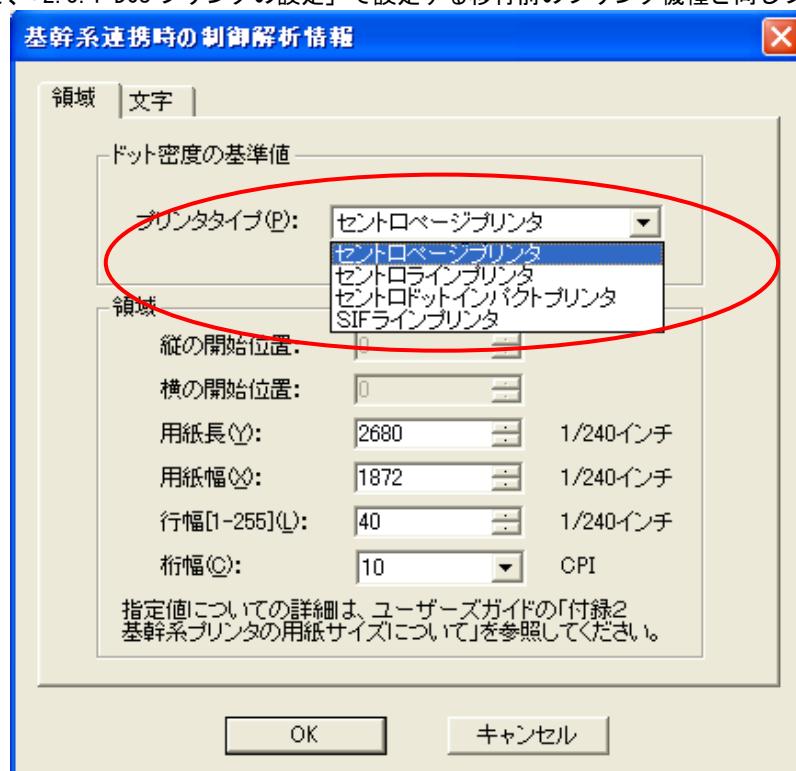
従来基幹系からの出力とは、ACOSから出力された帳票印刷用データを用いてBizReportingで出力を行うことです。制御解析情報とは、ACOSからの帳票印刷用データをBizReportingで解析する際に必要な、プリンタタイプ、従来用紙の大きさ、改行幅、桁幅、文字のフォントと大きさ拡大の既定値、文字ピッチの既定値などの情報です。

プロジェクト簡単設計後はプリンタタイプに「セントロページプリンタ」が設定されているので、基幹系連携時の制御解析情報ダイアログでご利用のプリンタタイプの設定を行う必要があります。

プリンタタイプの設定を行う場合、プロジェクトウィンドウの「基幹系情報」—「userdata01」をダブルクリックし、基幹系連携時の制御解析情報ダイアログを開きます。

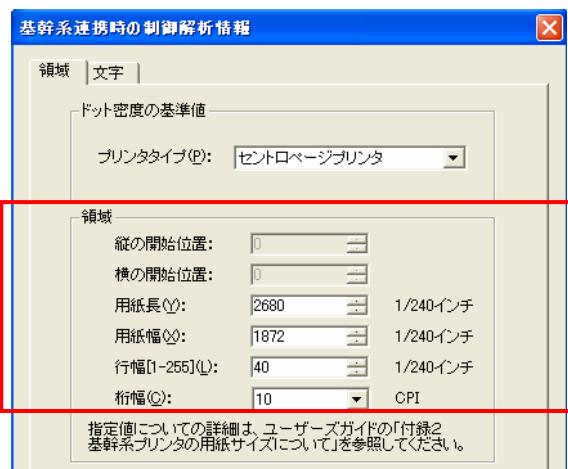
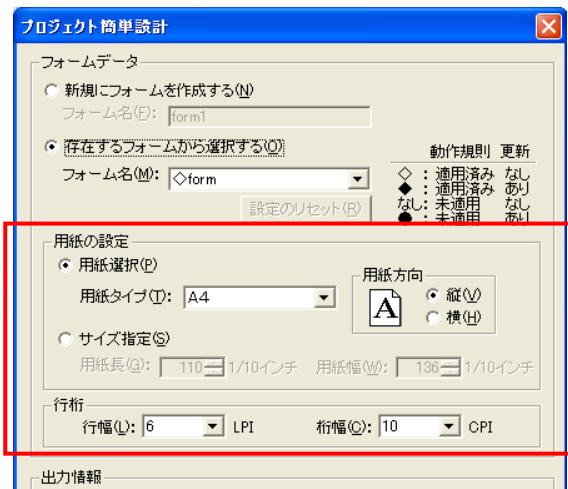


「プリンタタイプ」で、「2.3.1 DCS プリンタの設定」で設定する移行前のプリンタ機種と同じプリンタを設定します。

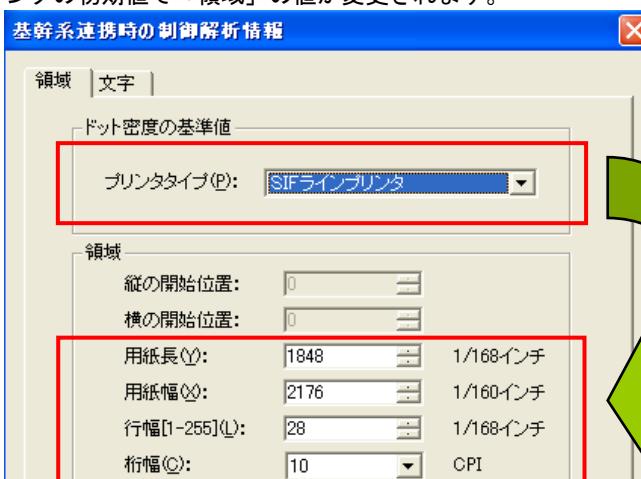


## 注意

- 基幹系連携時の制御解析情報ダイアログの「領域」の値について  
・プロジェクト簡単設計の「用紙の設定」、「行幅」で設定した値が「領域」の値に反映されます。

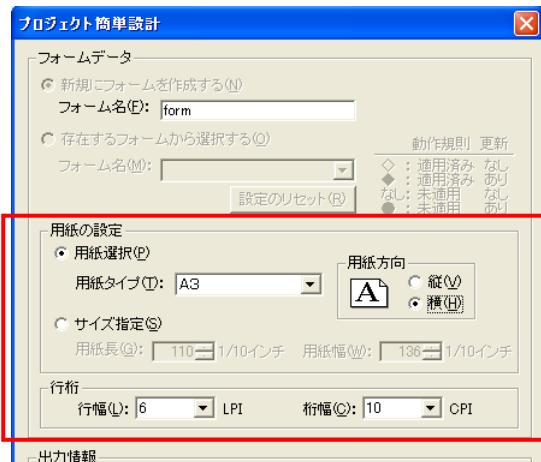


- ・基幹系連携時の制御解析情報ダイアログで「プリンタタイプ」を変更した場合、各プリンタの初期値で「領域」の値が変更されます。

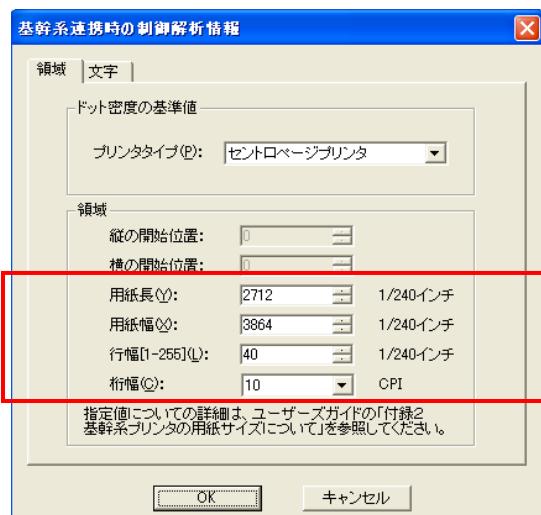


⇒この後プロジェクト簡単設計にて編集を行った場合、「領域」の値がプロジェクト簡単設計で設定した値で上書きされますのでご注意ください。

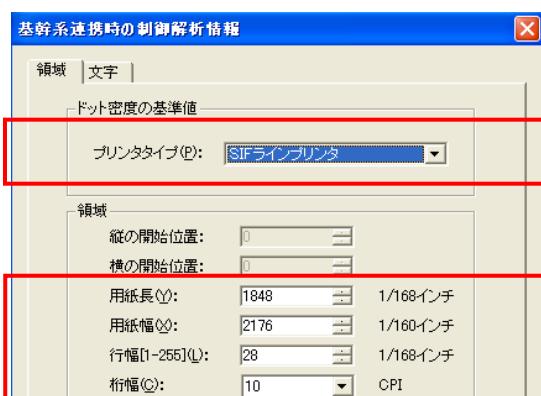
例) プロジェクト簡単設計の「用紙の設定」で「用紙タイプ：A3」「用紙方向：横」「行幅：6」「桁幅：10」を設定した場合、



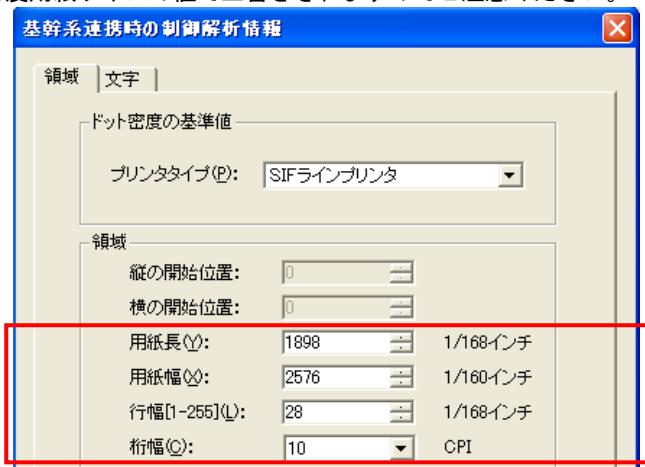
基幹系連携時の制御解析情報ダイアログでは、上記の用紙サイズに合わせて「領域」の値が「用紙長：2712(1/240 インチ)」「用紙幅：3864(1/240 インチ)」「行幅：40(1/240 インチ)」「桁幅：10(CPI)」となります。



「プリンタタイプ」を「セントロラインプリンタ」に変更した場合、セントロラインプリンタの初期値「用紙長：110(1/10 インチ)」「用紙幅：136(1/10 インチ)」「行幅：20(1/120 インチ)」「桁幅：10(CPI)」に「領域」の値が変更されます。



再度プロジェクト簡単設計ダイアログを表示し、「OK」を押下した場合、基幹系連携時の制御解析情報ダイアログの「領域」の値が、再度用紙サイズの値で上書きされますのでご注意ください。



※回避策※

プロジェクト簡単設計ダイアログの「用紙の設定」で設定した用紙と基幹系連携時の制御解析情報ダイアログで設定した「領域」の値を合わせてください。

## 4 付録

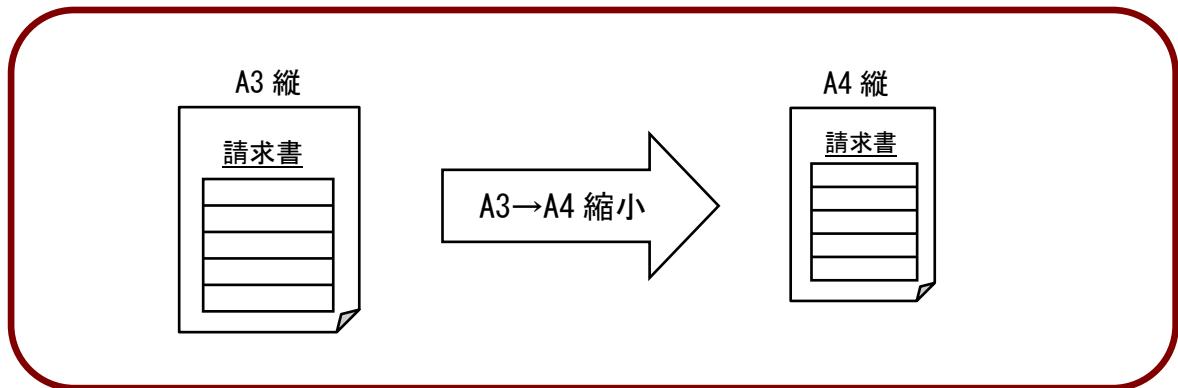
---

## 4.1 様々な帳票

ここでは、様々な帳票の設定方法を紹介します。

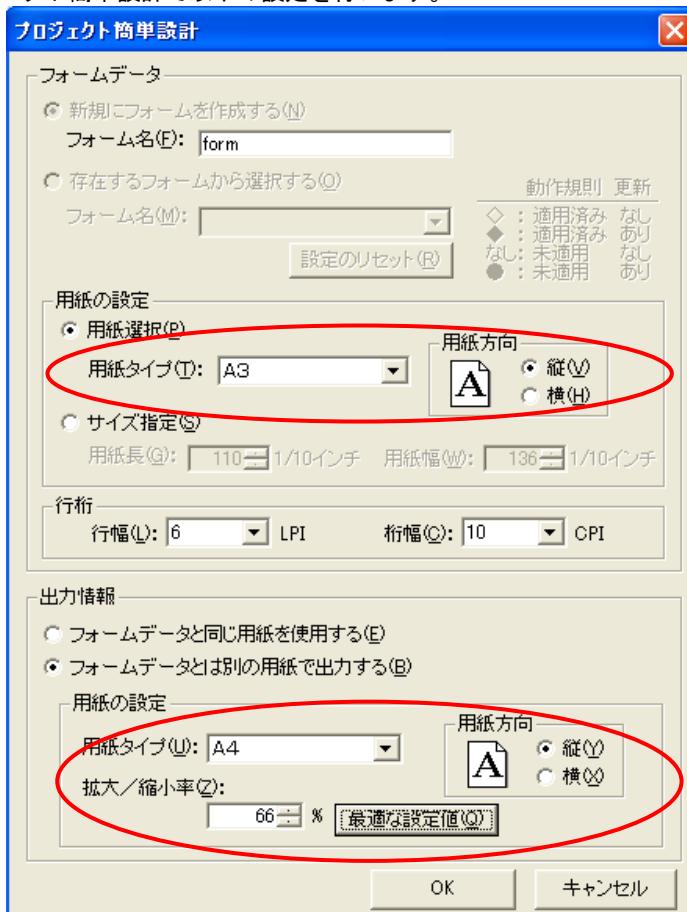
- 4.1.1 A3 縦用紙の帳票を A4 縦用紙に縮小して出力したい場合
- 4.1.2 連続紙帳票をカット紙に出力したい場合
- 4.1.3 横 13.6 インチ、縦 11 インチの帳票を連続紙プリンタに出力したい場合
- 4.1.4 基幹系アプリケーションで 1 行 1/8 インチの帳票を出力したい場合

#### 4.1.1 A3 縦用紙の帳票を A4 縦用紙に縮小して出力したい場合

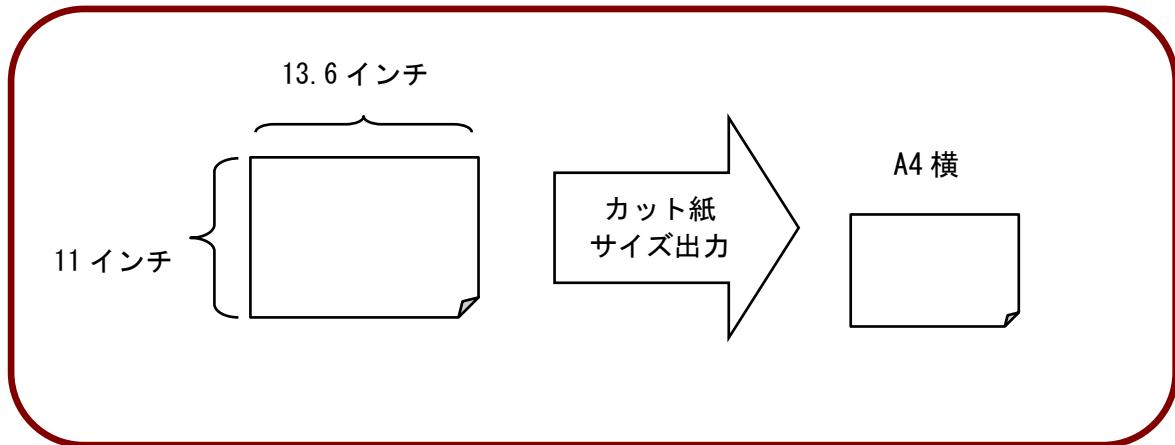


##### 【設定方法】

帳票設計時の設定：プロジェクト簡単設計で以下の設定を行います。

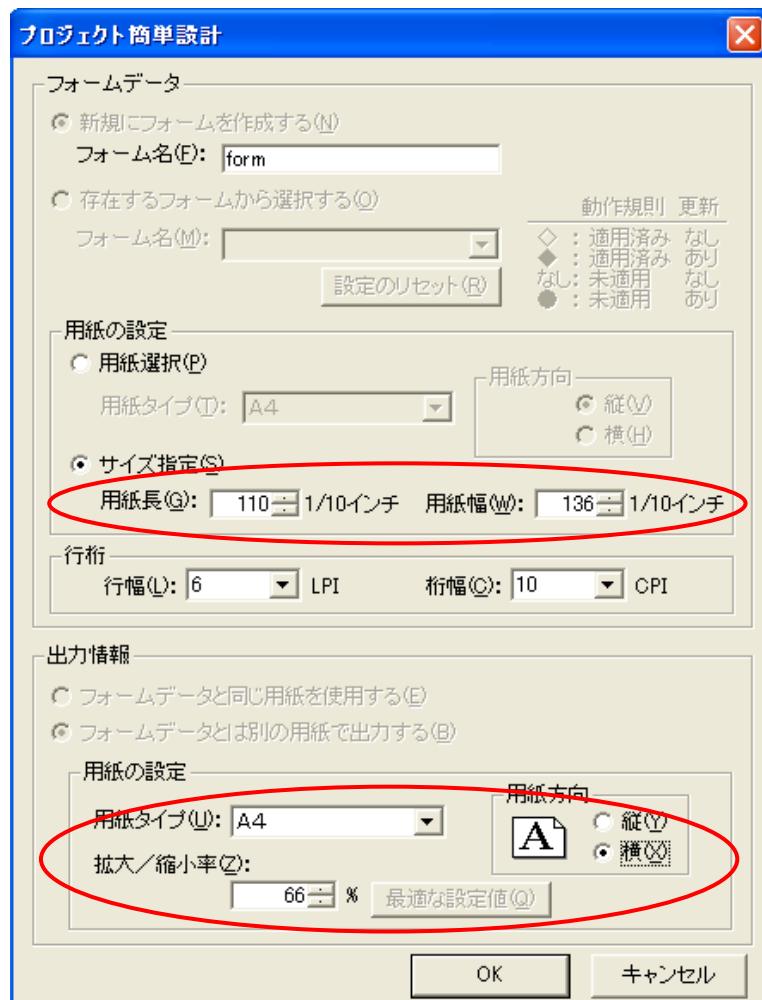


#### 4.1.2 連続紙帳票をカット紙に出力したい場合

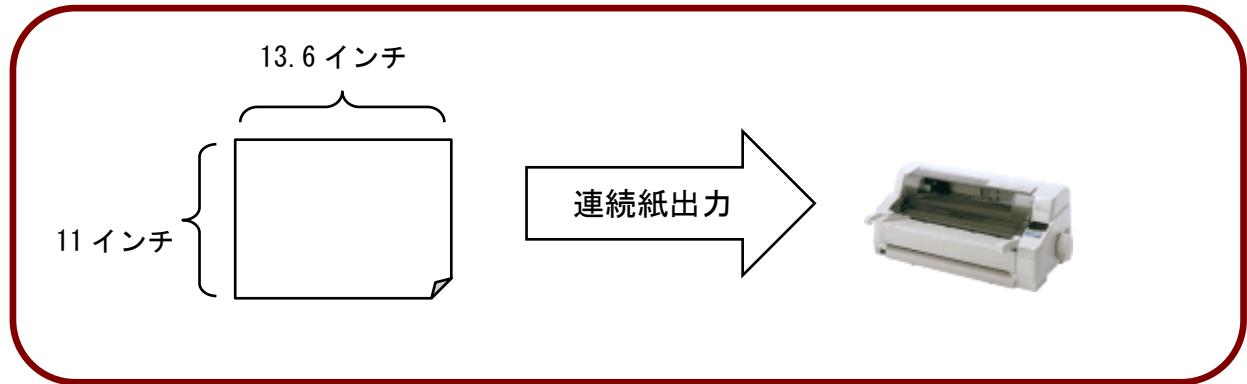


##### 【帳票設計時の設定】

プロジェクト簡単設計で以下の設定を行います。

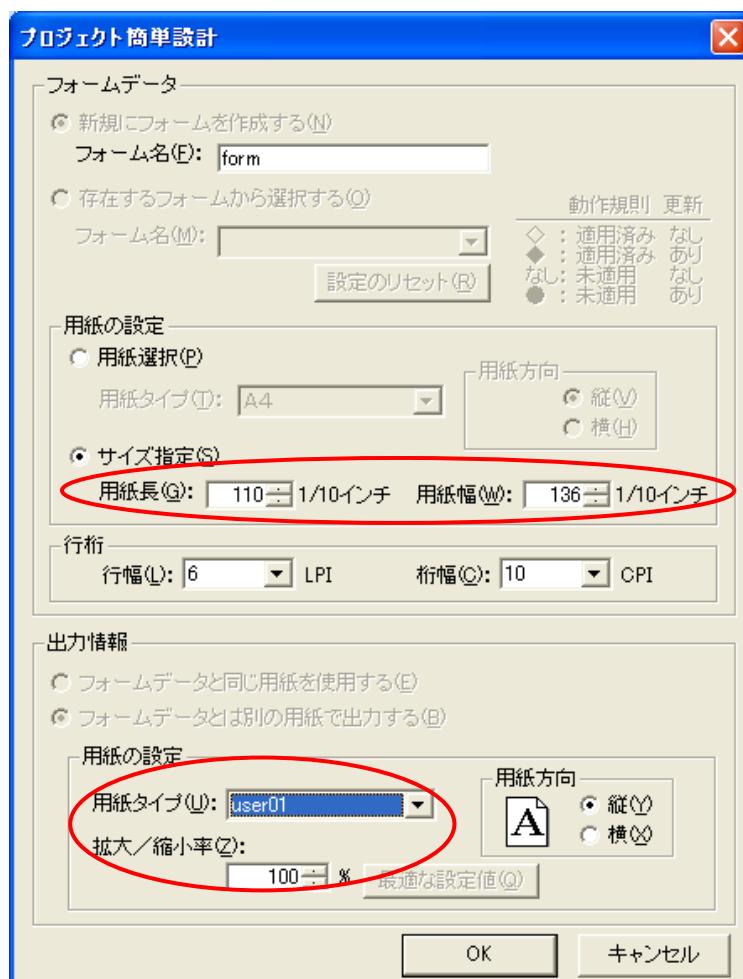


#### 4.1.3 横 13.6 インチ、縦 11 インチの帳票を連続紙プリンタに出力したい場合



##### 【帳票設計時の設定】

プロジェクト簡単設計で以下の設定を行います。

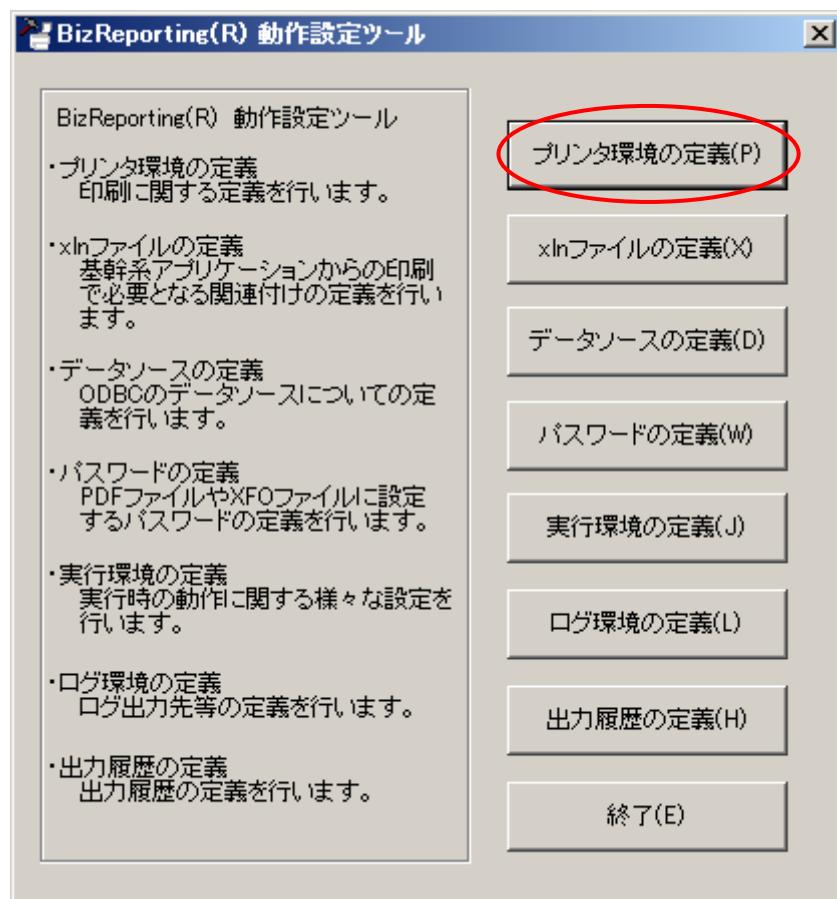


### 【出力環境の設定】

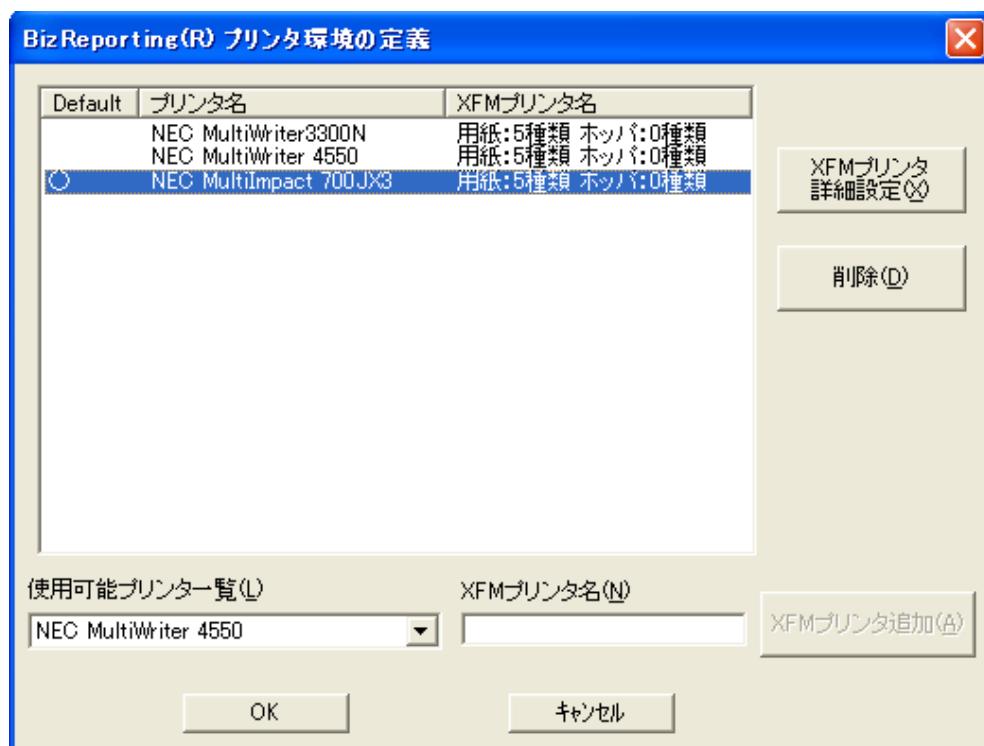
BizReporting 動作環境で用紙タイプ user01 = 13.6×11 インチ用紙サイズの設定を行います。

① 「プログラム」→「BizReporting」の「動作設定ツール」を起動します。

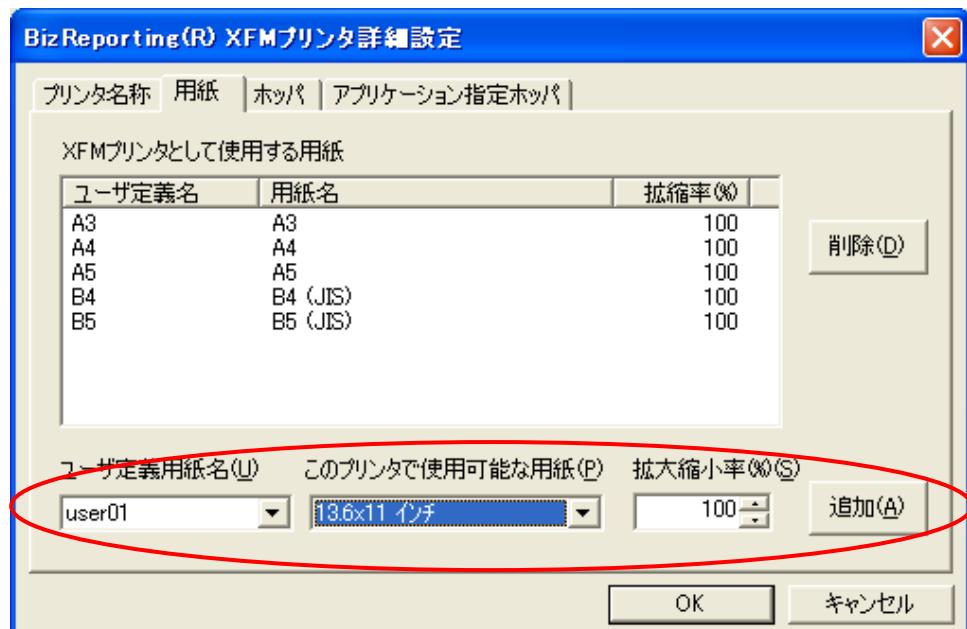
③ プリンタ環境の定義ボタンをクリックします。



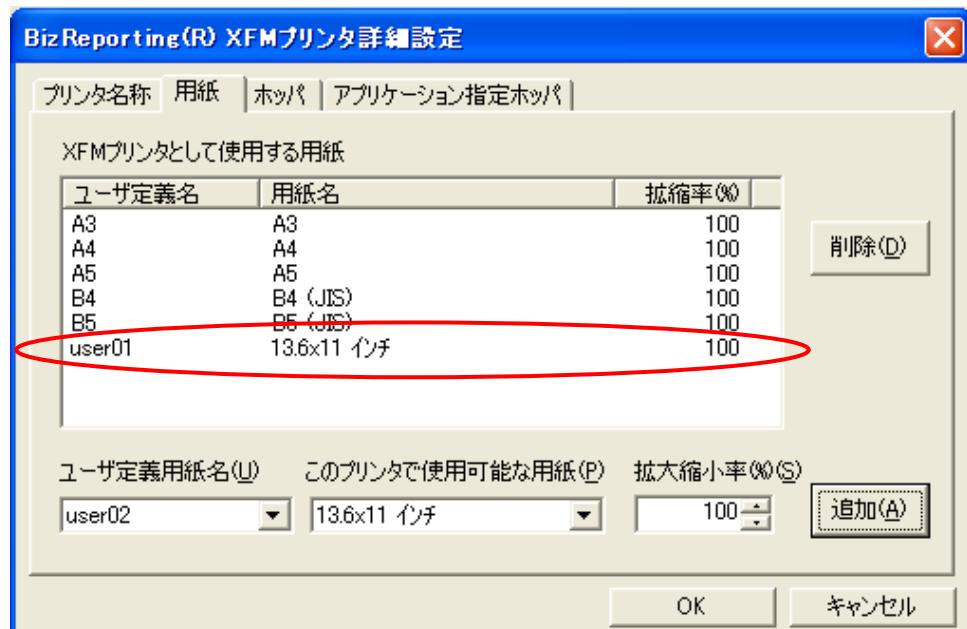
③出力するプリンタをダブルクリックし、詳細設定ダイアログを表示します。



- ④「用紙」タブで以下の値を設定し、「追加」をクリックします。  
ユーザ定義用紙名 : user01  
このプリンタで使用可能な用紙 : 13.6×11 インチ（次頁の「メモ」参照）



- ⑤「XFM プリンタとして使用する用紙」の一覧に追加されたことを確認し、「OK」をクリックします。



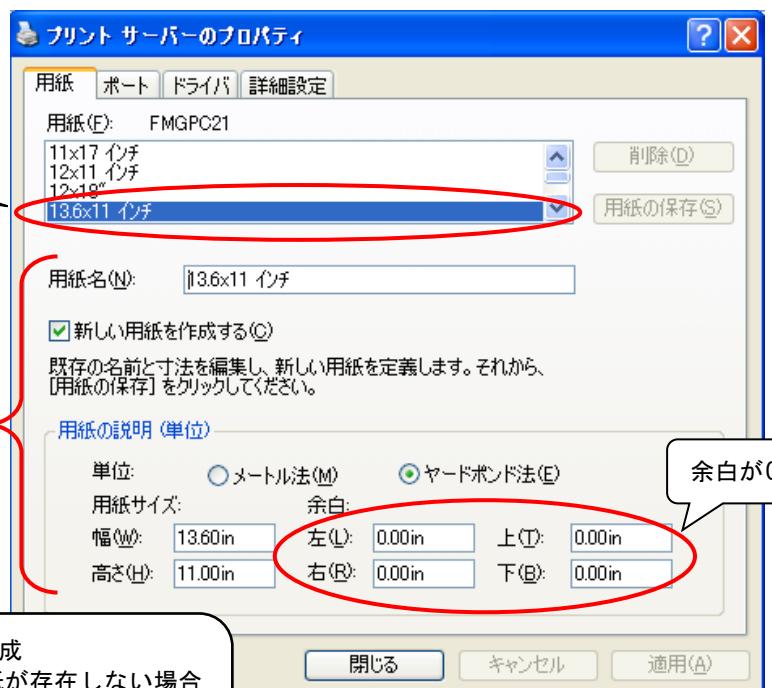
## メモ

### ●ユーザ定義用紙の余白設定

ユーザ定義した用紙の余白が上下左右とも0であることを確認してください。

#### 【確認方法】

- ①[スタート]→[設定]→[プリンタとFAX]を選択します。
- ②[ファイル]メニューの[サーバーのプロパティ]を選択し、下図「プリントサーバーのプロパティ」ダイアログを表示します。
- ③「用紙」タブの「用紙」で、ユーザ定義した用紙サイズを選択します。  
「用紙の説明」で「余白」が0になっていることを確認してください。

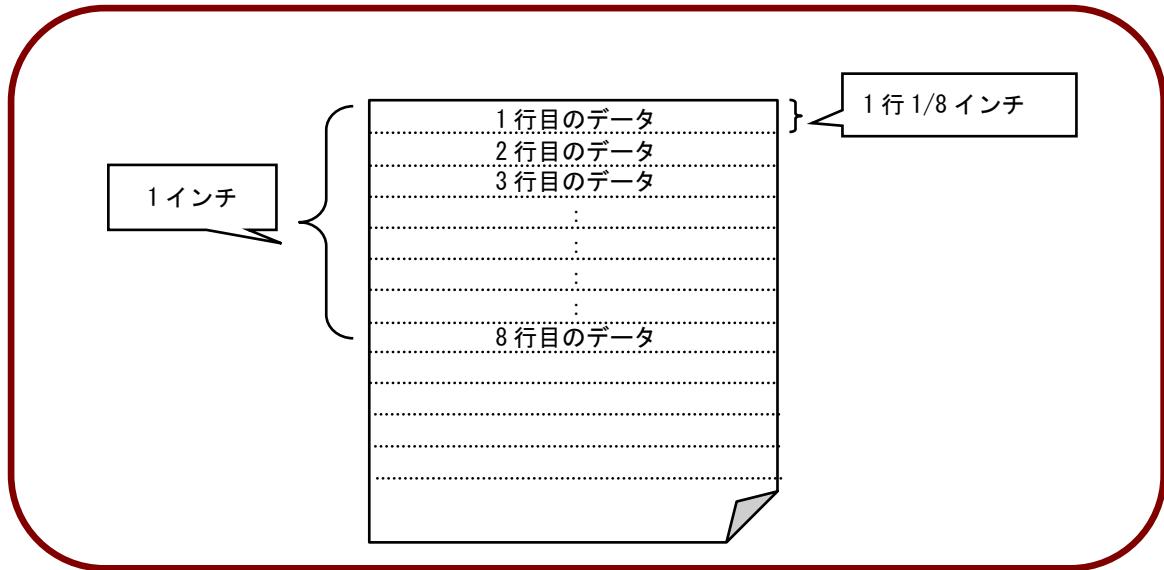


### ●新しい用紙の作成

このサイズの用紙が存在しない場合は、「新しい用紙を作成する」をチェックし、用紙名、用紙サイズ、余白を設定して用紙を定義してください。

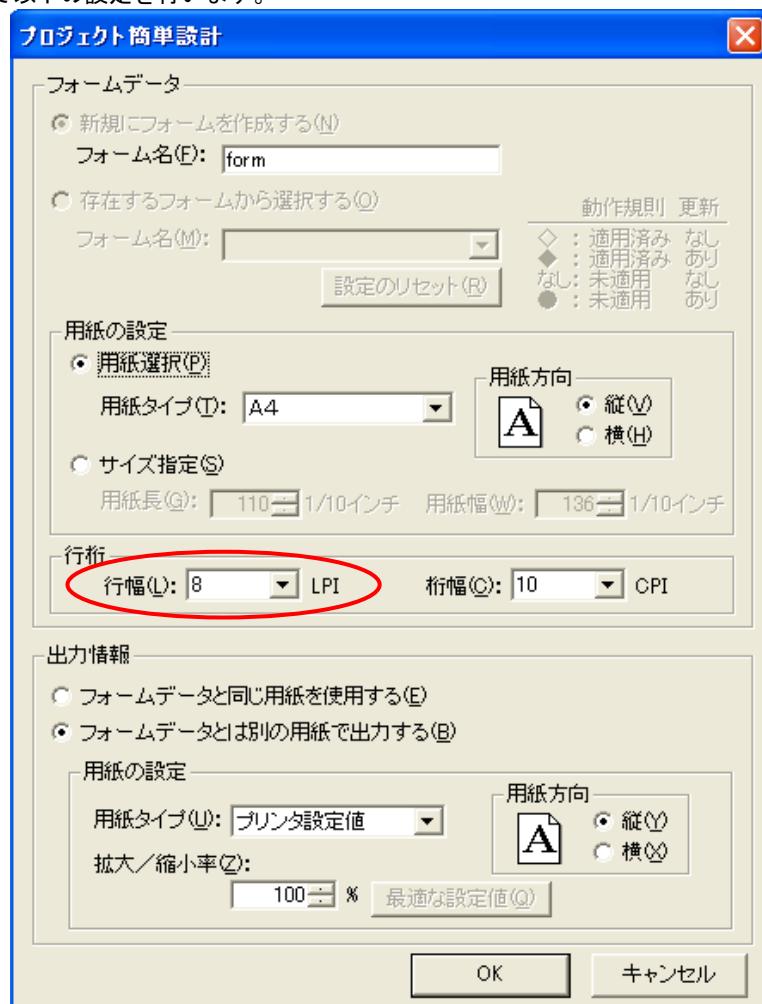
余白が0

#### 4.1.4 基幹系アプリケーションで 1 行 1/8 インチの帳票を出力したい場合



##### 【帳票設計時の設定】

プロジェクト簡単設計で以下の設定を行います。



## 4.2 環境構築チェックシート

「2 環境構築編」で BizReporting の設定を行った後、設定漏れをチェックするためのチェックシートです。BizReporting 設定後、本チェックシートを用いてすべての項目にチェックができるることを確認してください。

チェック	内容	参照
<input type="checkbox"/>	BizReporting デフォルトプリンタの設定を行いましたか？	2. 2. 1 デフォルトプリンタの設定
<input type="checkbox"/>	xln ファイルの設定を行いましたか？ <ul style="list-style-type: none"><li>・対象機種の設定が BizReporting プリンタの設定と合っていますか？</li><li>・XFM ファイルのパスは合っていますか？</li></ul>	2. 2. 2 xln ファイルの設定
<input type="checkbox"/>	システム環境変数「SYSFOL」に登録したパスは合っていますか？	2. 1. 1 システム環境変数 SYSFOL の確認
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	ETOSJX の DCS プリンタの設定を行いましたか？ <ul style="list-style-type: none"><li>・BizReporting プリンタと同じプリンタを設定しましたか？</li><li>・プリンタ言語タブで「N5200 系コード」を選択しましたか？</li><li>・プリンタ言語タブの「障害通知」で「通知しない」を選択しましたか？</li><li>・プリンタ言語タブの詳細設定で「プリンタ機種名」に「BizReporting(ページ系)」または「BizReporting(シリアル系)」を選択しましたか？</li><li>・排出方法タブの「プリンタ監視」で「監視する」を選択しましたか？</li><li>・プリンタサービスを開始しましたか？</li></ul>	2. 3. 1 DCS プリンタの設定
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	BizReporting プリンタの設定を行いましたか？ <ul style="list-style-type: none"><li>・ETOSJX の DCS プリンタと同じプリンタを出力先のプリンタに設定しましたか？</li><li>・出力先のプリンタに「Default」を選択していませんか？</li></ul>	2. 3. 2 BizReporting プリンタの設定
<input type="checkbox"/>	XFM ファイルの「基幹系連携時の制御解析情報」で設定した「プリンタタイプ」と移行前のプリンタが合っていますか？	3. 5 基幹系情報の設定